

全大教・新型コロナウイルス感染症への対応下での 労働実態・教育研究状況アンケート 報告

2020年10月
全大教中央執行委員会

1. 設問

教員対象と、事務職員・技術職員対象の2種類のアンケートを作成し、回答者はいずれかに回答することとした。設問は、別紙に示した。

2. 実施方法

6月17日から、インターネット上の Google Forms を利用して回答を得た。加えて、7月6日以降は、全大教加盟組合での紙媒体による回答も受け付けた。最終的に9月9日に回答受付を締め切った。実施にあたっては、全大教ホームページにバナーを作り Google Forms の回答フォームにリンクさせ、全大教ホームページや全大教公式ツイッターアカウントでアナウンスするとともに、全大教加盟組合に組合員への周知と回答の要請を行った。

3. 回答数等

教員、事務・技術職員それぞれ、以下の回答が得られた。

職 種	回 答
教員	1174
事務・技術職員	643

－ 目次 －

新型コロナ感染対応下の大学・高専・大学共同利用機関の現場からのメッセージ..... 3

教員

1. 新型コロナ対応下での業務負担..... 5
2. 業務負担のうち特に増えている内容..... 8
3. 在宅勤務.....11
4. 在宅勤務における業務遂行..... 12
5. 新型コロナ対応および在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務..... 15
6. 在宅勤務の環境整備【機器】..... 17
7. 在宅勤務の環境整備【通信費・水道光熱費】..... 19
8. 遠隔授業【講義】..... 21
9. 遠隔授業【ゼミ】.....25
10.在宅勤務における研究.....28
11. 新型コロナの感染拡大を防止しつつ教育研究体制の充実を進めるための課題..... 31
所属、雇用形態、専門分野等、性別、年齢.....34

事務職員・技術職員

1. 新型コロナ対応下での業務負担..... 35
2. 業務負担のうち特に増えている内容..... 37
3. 在宅勤務..... 38
4. 在宅勤務における業務遂行..... 39
5. 新型コロナ対応および在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務..... 40
6. 在宅勤務の環境整備【機器】..... 41
7. 在宅勤務の環境整備【通信費・水道光熱費】..... 42
8. 新型コロナの感染拡大を防止しつつスムーズな業務のための課題..... 43
所属、雇用形態、職種、性別、年齢..... 46

別紙：質問票

新型コロナウイルス感染対応下の大学・高専・大学共同利用機関の現場からのメッセージ

全大教中央執行委員長 鳥畑 与一

今も世界中で拡散の勢いが止まず、日々、多くの犠牲を引き起こしている新型コロナウイルス感染(Covid-19 パンデミック)は、日本の研究教育の世界をも直撃しました。2月の突然の小中高の休校要請は教育現場に大きな混乱を与えましたが、大学・高専等の高等教育においても4月以降の授業開始延期と共に対面型授業中止からオンライン型授業への移行が突貫工事行われました。その過程で多くの大学施設が閉鎖となり、学生院生の学びの場の喪失と変貌が多くの失望と苦しみをもたらしたことは Free や院生協議会などの学生諸団体の調査や訴えで明らかにされてきました。しかし、新型コロナウイルス感染対応の医療業務など奮闘された教職員や懸命にオンライン授業への移行に取組み、高等教育の「崩壊」を防いだ現場の頑張りを看過してはならないのであり、このアンケート調査はその奮闘を伝える貴重なデータだと思えます。

すでに後期の授業が始まるなか、私たちはより良き高等教育の実現とそれを支える職場環境の維持のために、ここまでの経験から何を学び、そして教訓を引き出すのかが問われています。様々な意見や評価が交錯する中、まずは事実に基づく議論が重要です。ここに多くの教職員の協力のもとに実施されたアンケートの結果をお伝えすることができることを喜んでいきます。ご協力頂いた皆さんに、結果をもっと迅速にお届けできなかったことをお詫びするとともに、あらためて感謝申し上げます。これですら全国の高等教育の現場で起きたことのほんの一部しか反映していないと思えますが、建設的な議論への第一歩だと確信しています。

まずは寄せられた回答のデータや自由記述の声をご確認下さい。その上で、今回のアンケート結果をどう理解し、今後活かすべきなのかについて若干の意見を述べさせていただきます。

まずどういう状況下で、私たち大学・高専等で教育研究に従事する教職員が新型コロナウイルス感染を迎え撃つことになったかです。

第1に国立大学等が法人化されて以降の人件費削減による人手不足と多忙化のなかでの対応を迫られたことです。法人化以降の「選択と集中」で日本の研究水準の地盤沈下が進んだことは広く認識されるようになっていますが、人件費等を賄う運営費交付金の減額と外部からの競争的研究費の依存増大は、教育研究現場でのスタッフ削減と業務負担の増加を平行に促進して来ました。その端的な結果が研究時間の減少でした。また学生の教育指導に割く時間的余裕の減少でした。そんな多忙化と人手不足に悩む現場を新型コロナウイルス感染が襲ったのです。多くの教職員が既存の業務負担に加えて新たな新型コロナ対応業務の増大に懸命に取り組んだことが業務量増大という大多数の声に反映されています。業務量減の声も会議数が減ったのが理由というように各種委員会等の会議負担の大きさを示しています。また実験系で研究が出来なくなったため時間外労働が減ったという皮肉な事実も示されています。

第2は、法人化以降の大学等の施設整備の遅れの結果、殆どの教職員が貧困なネット施設の

もとで新型コロナ感染対応のオンライン授業等の準備や研究の維持を迫られたことです。オンライン授業を行う施設整備が充実していた大学等では、双方向型を中心としたオンライン授業への全面的移行がスムーズに行われましたが、ほとんどの大学等はサーバー容量不足などのネット環境のため、資料配信・課題指示型や動画のオンデマンド配信などのオンライン授業に頼らざるを得ませんでした。これらの授業はこれまでと質的に異なる授業準備を必要とし、心身両面での大きな負荷を現場に与えたことは、業務負担増加の理由に授業準備が突出していることに示されています。授業効果が高く、対面型授業とほぼ同質のリアルタイムの双方向型オンライン授業を行える施設整備は予算不足のためほとんどの国立大学では進まなかったことが現場のストレスを高めることになりました。

第3は、新型コロナ感染防止のための十分な予算もない中での対応だったことです。その象徴はバイト消失等で経済的に困窮した学生への独自の経済的支援の遅れでした。また学内施設の消毒などの安全対策を講じる予算もなく、画一的な施設閉鎖に追い込まれることになりました。また学内施設を使えない学生やネット環境に不備のある学生への支援等のケアが十分に行えない状況のなかで教職員の業務負担の増大を招くことになりました。

第4は、新型コロナ感染対応に取り組む教職員への支援体制の整備が遅れる中での業務だったということです。多くの教職員が在宅勤務を余儀なくされ、そのための自宅からのオンライン授業やオンライン会議を行うための環境整備が必要になりましたが、それに対する経済的支援が不十分なため、ほとんど自費負担での対応となっています。学生ばかりか教職員の自宅のオンライン環境の整備がオンライン授業や在宅勤務のために必要になっていますが、この面での支援が大きく立ち遅れたままです。

このアンケート調査が示すように、現場の教職員の頑張りでもオンライン授業等への移行が短期間で実現し、そして高等教育の崩壊を防ぐことができたことを誇りに思います。確かに学びの場の質の低下を防ぎ得なかったのは事実ですが、人手不足、施設の貧困、予算不足等々のなかで新型コロナ感染拡大による教職員学生の犠牲を防ぎつつ乗り切ったことを理解頂ければと思います。

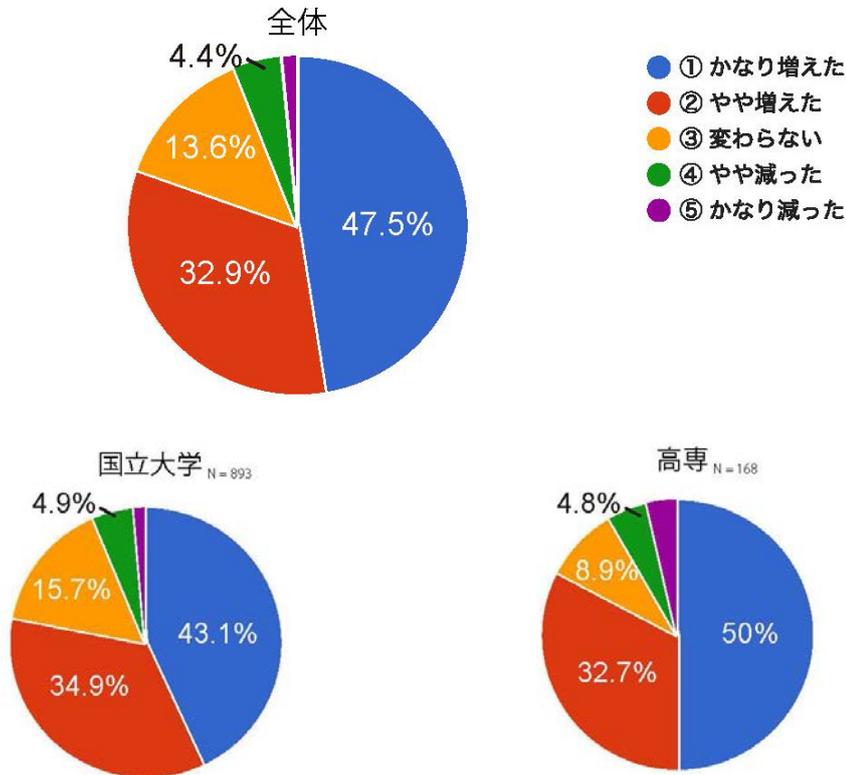
同時にアンケート調査が示すように、現場教職員は疲弊し、その頑張りも限界に直面しています。この業務負担の増大が、研究時間や学会活動の減少を招いており、この状況の長期化は大学等の研究水準を大きく低下させることとなります。また新たな課題指示やチェックなどの学生指導の懸命の対応にも関わらず、オンラインでの試験の信頼性も含めて学生への教育効果の維持にも問題を残しています。教育研究の質の維持のためには何が必要なのか現場で起きていることを踏まえて検討していく必要があります。

同時にオンライン授業等に取り組む中で新たな新型コロナ感染下での教育研究の充実に向けたアイデアやノウハウを蓄積しつつあります。そこで明らかになったのはオンライン授業の魅力を活かすためには、それだけの労働量が必要であり、サポートするスタッフの充実が不可欠だということです。私たちもこのアンケート調査で得た知見を、文部科学省要請や各大学等での交渉に活かして行きたいと考えています。

教員

1. 新型コロナ対応下での、教育・研究・診療・学内業務等をすべて含めた業務負担は、例年と比べてどうでしたか。

1169 responses



新型コロナ対応下での業務負担について、約80%の教員が例年と比べて業務負担が増えたと回答している。業務負担が増えた理由として遠隔授業への対応が多く挙げられており、自由記述からは、遠隔授業の準備から授業後のフォロー、学生への対応など、未経験かつ緊急の対応が迫られる中で多大な業務負担となっている状況が見える。業務量が減ったとする回答では、在宅勤務や構内立ち入り制限などが行われる中で、実験ができないことや、会議のオンライン化、出張の減などが挙げられている。

【自由記述】

- リアルタイム zoom 授業は原則禁止とされ(相応に合理的な判断と理解)、「オンデマンド型(PDF+補足動画)+zoomによるオフィスアワー」体制に切り替えたことから、(1)従来の講義ノートが使えないために、書き直すことになったこと。(2)その資料に、それまで口頭で追加していた多くの情報を全て文章で書き込む必要が生じたこと。(3)一方で学生が付いてきているかを確認するために、小課題や zoom オフィスアワーを開催するなど、通常より学生ケアの労力をかけていること、が原因。並行して、担当する学生実験でも、特に4-5月の

登校ができない状況で、その回が当たった学生さんになんとか実験をしてもらうために、自宅送付型の仕組みを急速に立ち上げ、システム化し、送付作業、zoom などによるサポート体制などを構築し、実践したため。(国立大/常勤/理系)

- 教育に関しては、例年通りのカリキュラムができずに 3 回以上時間割を組みなおし、年間ガイダンスの方法を 1 から作り上げが必要で、授業の提供方法においても、遠隔対応のために授業スタイルの構築から集合試験ができないときを見越した、ミニテスト作りを行いシラバスとの整合性を持たせるために、改革が必要な状態でした。研究は、対面ができないのでデータ収集にいけない、学会参加できない、教育に時間を取られて研究にさく時間も無い。そのうえ、コロナ対策で保健所の応援に借り出され、昼間は保健所、夜は教育業務を行い、残業の日々でした。代休も取れずに 6 月から授業が始まり、10 月ぎりぎりまで前期のことをしているので、夏休みも取れる見込みはありません。後期に入ると実習となりますが、実習が出来るかもわからないなか、学外実習の準備をしながら、それできない場合の振替実習のことを 1 からしないといけません。先が見えずに病みそうです。(公立大/常勤/理系)
- コロナ対策で講義準備や学生指導において個人個人で対応しなくてはならず、従来よりもはるかに時間がかかっている。またインターネット環境が整っていない状態で、学生への講義は、その時その時の状況に合わせて、対応をする必要があり、さらに設備がそろっていないこともあり、講義の準備に従来の 5 倍以上の労力が必要だった。また、学生のケアにもかなり時間を取られている。(国立大/理系/常勤)
- オンライン・オンデマンド授業の準備に追われている。また双方向のやりとりを求められるので、レポートの回数が増え、内容は薄くなっている。内容は薄くともレポートは目を通さねばならず、毎週対応に追われている。また、メールでのやりとりが増え、対面ならすぐに決まることでも何度もメールでやりとりをせねばならず、メールに目を通したり返信、決定に時間がかかるようになった。(国立大/理系/常勤)
- 遠隔授業の準備時間が増えた。動画撮影や動画編集というなれない業務であることも理由だが、騒音の少ない深夜や、オンデマンド動画プラスリアルタイムでの補足説明、オンラインオフィスアワーなど、オンラインになったことで学生に不利益が生じないように努力しているためでもある。(国立大/文系/常勤)
- 授業実施方法や成績評価方法の検討、それに合わせた授業内容の準備、学生への周知、学生の問合せへの対応などなど、例年になく業務が増えたため。また、特に年度当初は大学・学部の方針に曖昧な部分があり、遠隔授業に使用するツールも二転三転し、そのたびに新たなツールについての情報収集や資料作成をせねばならず、深夜労働もせざるを得ない状況であった。(国立大/文系/常勤)
- オンライン授業の準備、とくに、オンライン授業の実施のアナウンスが直前(授業開始の前の週)であり、ノウハウもない状態。関東の大学は 3 月にオンライン方針決定で、5 月連休明け開始と比べれば、教員の自助努力に依存しているとしかいえない。当然、大学のサポートはない。(国立大/文系/常勤)
- 対面授業では口頭で学生さんの学習に必要なフィードバックを、個人向けに、グループ向け

に、全体向けに、と適宜対応させて行うことができていますが、全ての場合を想定して、全ての学習教材を電子的に学内ネットワークに載せて学生さんが使えるようにしなければならないためです。口頭でのフィードバックができないため、担当する150人の学生さん課題にフィードバックを行うと、仮に一つの課題に5分のフィードバックで750分=12時間30分かかります。語学の授業ですが5分でフィードバックは終わりません。また、技術的なサポート教員に任命されてしまったため、電子教材の作り方などが分からない方に教えたり、そのための資料作成に莫大な時間がとられました。学期中もメーリングリストで技術的な質問を受けることになっていたため、いつも対応しなくてはならず完全な休日(研究、授業、管理運営的な業務をしない日)は学期中0日です。(国立大/文系/常勤)

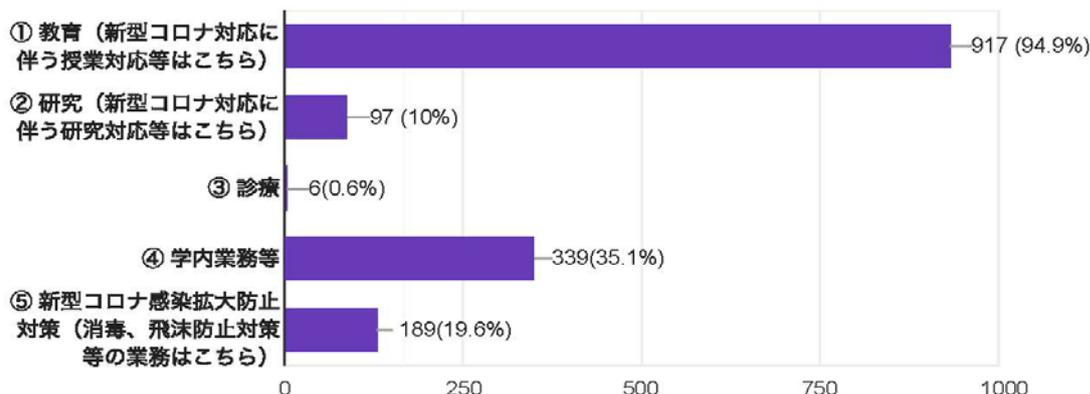
- 臨時休業や遠隔学習支援、休業解除に向けた衛生環境の準備に至るまで、その意思決定に気が遠くなるほどの情報収集と会議を要したこと。さらに決定に伴う連絡や感染拡大防止のための膨大な実務をこなしながら、実際の学習支援を行なうこととなったこと。(附属/常勤)
- 増えた側面としてオンライン遠隔授業準備の負担がある。他方、原則在宅勤務であることで通勤時間がなくなったことは拘束時間の軽減としては大きい。会議もオンラインになったことで無駄が減った面がある。(国立大/理系/常勤)
- 実験室で行う研究が主なため、自粛期間中の研究量が減った。受け持ち授業はほとんど無かったため、作業はそんなに増えなかった。(国立大/理系/常勤)
- 計画の見直し、例年とは異なる手段、方法をとらざるを得ないため、業務が異常に膨らんだ。遠隔授業の準備、後処理に加え、学生からの問い合わせが24時間体制で押し寄せる。(高専/常勤/理系)
- 遠隔授業ということになり、授業準備に土日や深夜までかかっている。課題提出遅れや、毎日の健康等調査無回答のフォローを担当が(も)することになっているが、経過が芳しくなく時間を取られている。今後、遠隔授業はそのまま継続し、校長命で分散登校もすることになっており、授業担当者としても、担任としても、2重の負担になる予定である。(私は違うが、遠隔授業や、教務、学生、寮等の直接の担当者は更に負担が大きい。)(高専/理系/常勤)
- 自分の分の遠隔授業教材を作成し授業運営を行うだけであればそれほど大変でもないが、パソコンや情報に疎い非常勤講師への対応が各学科・部門に任されていたため、その対応で相当な時間と労力をとられた。遠隔授業教材の作り方から、学生への配信・フォローの仕方、成績評価方法の変更等、さまざまな面において非常勤講師をサポートする必要があり、それが個々の常勤教員に一任されたため大変な負担と心労であった。また対面授業開始後にも遠隔授業を希望したり、発熱のために遠隔授業を受けざるを得ない学生への教材供与が学校から求められた。また高専受験を行う中学生の学習内容が削減されたため、それに合わせて入試の予備問題を作成し直すことが現在求められている。しかも新型コロナウイルス感染防止対策として、一般学力入学試験や特別推薦入試において追試験を行うことが機構から要求される見込みであるため、万々に備えそれぞれ2種類の予備問題を作成しなければならず、頭を抱えている。また教員ごとの一つ割り当てられた学内の教室等を、毎日清拭する

という仕事を与えられている。一度にかかる時間は 15 分程度だが、毎日となるとそれなりの業務量となってくる。(高専/文系/常勤)

- 実験実習について、遠隔でも対応できるように準備する必要が生じた。前期科目も後期に回す予定だったのが急遽 前期の途中から分散登校が始まり、実験を実施することになったのは良いが、状況が変化して全ての科目が遠隔授業に戻り、実験も内容の見直し、実施方法など、1 週間のうちに授業をほぼ 0 から組み直すことが必要となった。従来の座学については、従来は板書していた内容を提示資料として書き起こす必要があり、手間が増えている。(高専/理系/常勤)
- 本校は首都圏にあるため、今年度は遠隔授業と分散登校で対応することになった。分散登校のための時間割も追加で作成しなければならず、遠隔授業との併用、授業準備時間の増加、授業後に提出された膨大な課題チェックに忙殺されているから。(高専/文系/常勤)
- 授業が WEB になり、毎日授業準備に追われる。しかしながら、学内業務は例年を変わずに続き負担増になっている。今後学生登校が始まる予定だが、コロナ対策業務を担任や担当者に全て負担させようとしており、さらなる業務負担増となることが見込まれている。(高専/理系/常勤)

2. 1で①②と回答された方に伺います。業務負担のうち特に増えている内容は何ですか。【複数回答可】

966 responses



【自由記述】

- 実技実習は、授業を実施するかどうかの判断が遅く、準備がギリギリになった。また、授業内容を大幅に変更しなければならなかったため、資料作成がゼロからのスタートとなった。実技・実習授業で体験的に学習する教材を資料に置き換えたり、その教場でやりとりする事や共有できることを、全て文字にしたり学生個別に対応することが増えた。また、学習内容や評価等について不安に思う学生への対応も増えた。また、動画配信するための撮影や編集、

フィードバックのための資料作成など、オンラインのための準備が増えた。(国立大/文系/非常勤)

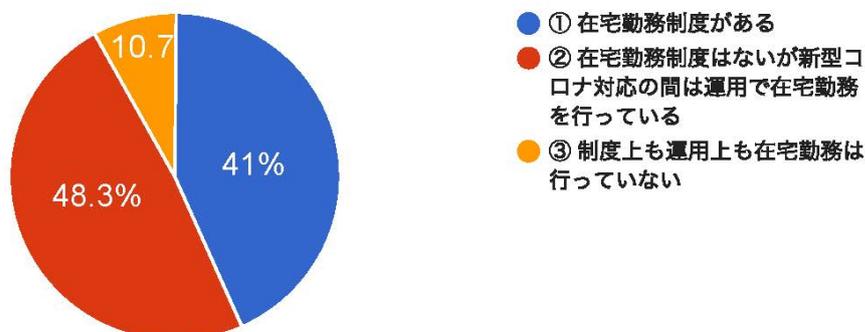
- 留学生、交換留学に関わる業務であるから、余計に新型コロナ対応に追われているのだと思われる。また、これらの決定は大学の意思決定などが遅く、現場は混乱しているにも関わらず、とても無責任な状態となっている。現場が非難を受ける状況はおかしいと思う。(国立大/文系/常勤)
- オンライン授業の準備(操作の仕方、資料の作成)で通常以上の労力を必要としています。常勤ならまだしも、給与の少ない非常勤に対してそのための金銭補償がないのは、不当であると思います。常勤と非常勤を分断する意図はありませんが、多分非常勤の声は届きにくいはずなので、意見を述べさせていただきました。(あとはいうことはほとんどありません)(国立大/文系/非常勤)
- 教育では遠隔授業に対する準備が非常に多くなった。そのほか感染防止対策に課関わる業務が大幅に増加した。研究室の感染防止対策は各教員に丸投げされている。感染防止に関わる物品は品不足で正規の購入方法では納品が遅くなるため、個人購入し個人的な負担となってしまう。(国立大/理系/常勤)
- Adding my lesson materials to the online learning management system took considerably more time than classroom teaching would have taken. Furthermore, assessment took much, much more time than it would have in normal years. There was also a considerably increased burden of administrative email communication because of the disruption.(国立大/文系/常勤)
- 文科省から、遠隔授業は毎回学生との意見交換の機会を持つようにとの指示があり、30名程度の授業ならともかく、300名を超える授業ではとてもできない指示である。にもかかわらず、大学側は、何ら対策もないまま、それを「ルール」のように押し付けてきて、しわ寄せがすべて履修者の多い教員に来ている。(国立大/文系/常勤)
- 授業数が多いため、オンライン授業を作る数が膨大になる。また、コロナ対策として学部・大学院・留学生の入試関係の変更(募集要項の加筆修正や入試方法の変更)や自宅にいる学生らの状況把握、さらに新入生への特別ケアで、少なくとも研究時間は全く無くなった。ここ5年間で学科の教員数が2割削減されており、通常時でさえギリギリの余裕がない教室運営の所へコロナの別イベントが挟まったので、ごく当然の状況に陥ったと思っている。(国立大/理系/常勤)
- 新しいツールに関する知識とスキルの習得、リモート授業の設計、授業用の教材作成、新しい評価システムの構築、シラバスの書き直し、教務部学務部との連絡、大学図書館を利用できないことによる障壁を克服して研究を継続するための模索、研究会がリモート開催になったために以前は遠隔地で参加できなかったものに参加できるようになったことからくる業務の増加など。(国立大/文系/非常勤)
- 1年生の授業担当だったので、学生のネット接続環境の調査を手始めにシラバスの改定を行

い、パソコン操作にまだ慣れない 1 年生から間断なく続く履修登録の受付やテキストデータの配布、問い合わせへの対応に追われた。授業が軌道に乗ってからも、非同期型(オンデマンド)動画用の教材研究、動画収録・編集・配信、オンライン上での課題の採点・コメント返却などに要する時間が増え、通常の対面授業に比べて数倍の手間がかかった。(国立大/文系/非常勤)

- 受講生に 1 年生が多く、ネット環境や PC 所持率などの受講生の自宅インフラが整っていなかった為、それに合わせた教材を作成するのに多大なる時間を要した。大学が学生に Wi-Fi や PC の貸し出しをしたようですが、十分ではなく、リアルタイム配信や動画のみの配信だと受講できない学生が少なからずいたので、そのようなケースを想定して講義を作成する必要がありました。研究はほぼ出来ていません。研究の業務負担が増えればよかったのですが。(国立大/文系/非常勤)
- 学生により受講環境が違い、こちらからプリント等の物理的資料が配れないことなどの配慮を行いながら遠隔授業の準備をするが大変でした。資料は一から作りなおし、慣れない機器での作業、受講のチェックをするための課題作成とその採点…作業量と作業時間は対面授業の比ではなかったです。(高専/理系/常勤)
- 学生指導において、言葉で話しをできれば 10 秒で済むことが、メール等だと文章を書くのにものすごく時間がかかる。また、学生の表情がみえないので、やり取りに時間がかかる。遠隔授業の準備と、課題をみるのも紙ベースより時間がかかった。(高専/理系/常勤)
- 学生との質疑等で、本来は教室で一言二言で済む話が、相手の通信環境を考慮しての対応や、勤務時間外のメール対応が増えた。オンライン通話は教員側ではなく、学生側に制約が大きい。容量制限や通信料など。(高専/理系/常勤)
- 対外的な仕事も、計画が状況に大きく左右され、不確定な先の状況に対応する準備に負荷がかかる。学内業務だけでなく、外の仕事を抱えていると重畳して業務量が膨らむ。(高専/理系/常勤)
- 人的資源無限大の前提で、制限なしに業務が降ってくる。業務管理が機能していない。誰も管理しようともしない。(高専/理系/常勤)

3. 在宅勤務について伺います。

1158 responses



在宅勤務について、「制度がある」と「運用で行っている」を合わせると約 90%の法人で在宅勤務が行われている。新型コロナのような感染症の場合に在宅勤務を可能とするところが多いが、育児や介護などの場合でも可能とするところもある。また、教員については、従前から、自宅研修届けを提出すれば在宅勤務を可能としているところもある。

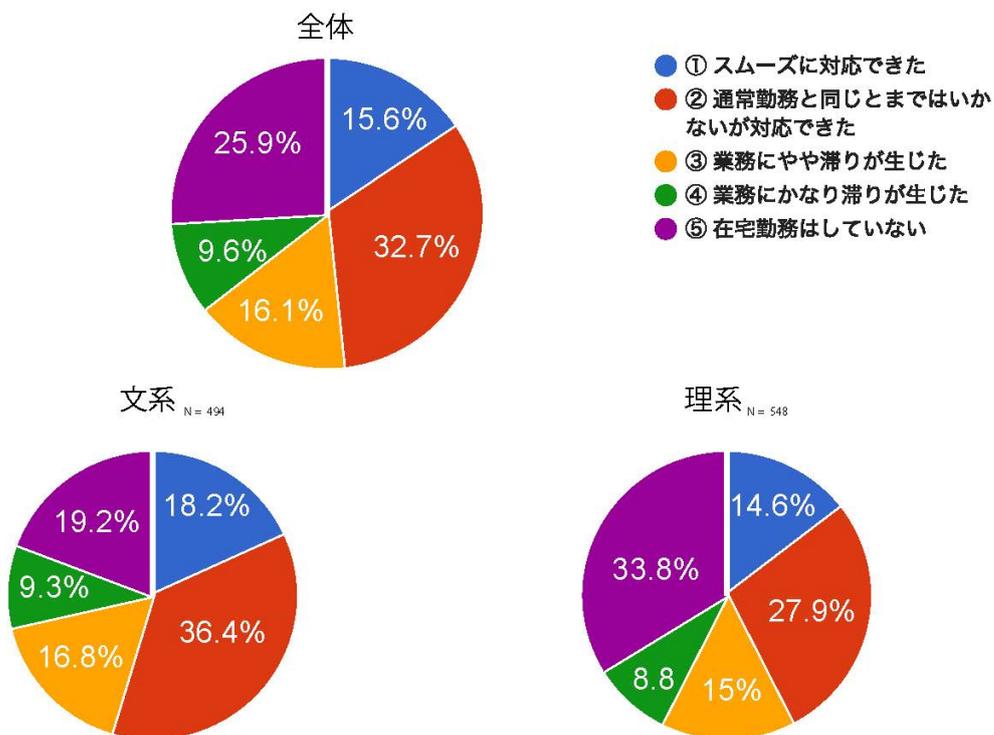
【自由記述】

- 条件無しで在宅勤務制度が適応された。むしろ在宅勤務を奨励された。(国立大/理系/常勤)
- 新型コロナ感染症拡大防止のために 5 月 1 日より就業規則を改訂して制度化されたが、時限的なものであり、緊急事態宣言および休業要請が解除されて以降は、拡大防止の必要性のある場合に限り在宅勤務が認められている。(国立大/文系/常勤)
- 制度上は在宅勤務が可能としているが、附属学校勤務では、生徒が登校しているので、在宅勤務はほぼ不可能である。(附属/常勤)
- コロナ警戒レベルが高いときは在宅勤務が基本で、出勤は代表者の許可が必要だった。落ち着いている現在は逆で、出勤が原則、在宅は「希望すれば認める」となっている。(国立大/理系/常勤)
- 新型コロナのような感染症の場合、育児・介護の場合。(国立大/文系/常勤)
- 感染の恐れがある地域からの通勤が予想される場合、自身の子供の休校により自宅で面倒を見る必要がある場合、等。(高専/理系/常勤)
- 新型コロナウイルス感染症対策として、在宅勤務制度があったが、現在は授業準備等のため、認められていない。(高専/理系/常勤)
- 在宅勤務制度はあるが、そもそも職場に出勤しないとできない仕事なので、利用したことはない。(高専/理系/常勤)
- 理由を申請するよう指示がありましたが、具体的に何が認められるのか明確でないため、把握していません。本来、現在の状況であれば特に理由はなくて良いように思います。(高専/

理系/常勤)

4. 在宅勤務における業務遂行は例年の通常勤務と比べてどうでしたか。

1115 responses



在宅勤務における業務遂行について、全体で見ると、「対応できた」と「滞りが生じた」が半数ずつの回答となっており、理系では「在宅勤務はしていない」とする割合が増える。自由記述からは、研究分野の特性や通信環境や機器の整備状況、法人のサポート体制の充実度合いなどによって異なる状況が見える。また、在宅勤務における育児・家庭生活との両立の課題も挙げられている。

【自由記述:文系】

- 業務量が多い。なのに、自分の子ども達も在宅になり、小学生の学習や幼児の世話や遊び相手、食事の準備や片付けなど、日中はほとんど家族に時間を使うので、業務量が5倍は増えているのに時間が足りない。(国立大/文系/非常勤)
- 在宅勤務制度があるはずだが、キャンパスから講義をするように言われている。また、このような(3密を避ける)状況にも関わらず、対面のミーティングが続いているのはおかしい。オンライン会議になったのはほんの10%にも満たない。(国立大/文系/常勤)
- データの持ち運び等が困難であった。クラウドのようなものを使用できる分野もあるのかもしれないが、そもそもデータが重たかったり、専用のソフトが必要であったりするので、困難

な分野もあるということは、理解してほしい。(国立大/文系/常勤)

- 在宅によるリモート授業の決定が比較的早かったことと、教員向けの LMS の説明会や zoom の講習会など、準備のサポートがそれなりに行われたこと。(国立大/文系/非常勤)
- 自宅のネット回線が十分な体制ではなかったため、授業録画をするためだけに大学に出かけた。プリンターも自宅にない不便をすることもあったが、授業の準備は自宅でできた。(国立大/文系/常勤)
- 時間割の関係上、オンラインによる講義を月曜日から金曜日まで平日は毎日実施しているため。ネットワークや PC など配信設備および授業にかかる準備を考慮すると、自宅から安定して配信することが困難なため。したがって、制度上在宅勤務を保障されているが、実際には毎日出勤しなくてはならない状態になっている。(国立大/文系/常勤)
- 新任教員として赴任したばかりで、突然在宅勤務になり、強い孤独感におそわれ、うつ状態になった。大学の担当講義のことについても、同僚も教務もきちんと説明してくれず、問合せでも、最低限のメール返信すらなく、強い不信感に襲われた。気持ちの面で、疲弊し、県外への外出自粛もきちんと守っていたので、ストレスがひどかった。(国立大/文系/常勤)
- 入試業務は在宅勤務ではできない。在宅勤務できる人とできない人との間で格差が生まれている。在宅勤務できない仕事で大学にいと、大学にいるからということでもた別の仕事が回ってくる悪循環。(国立大/文系/常勤)
- 1 日中パソコンの画面に向かって仕事をしていると、疲労感が強い。また、すべての資料を自宅で保管しているわけではないので、事務方に確認することが増えるなど、生産性が下がっていると思う。また、自宅のインターネット環境が不安定なことがあり、特に授業では対面授業よりも。(国立大/文系/常勤)
- 緊急事態宣言中のみ、在宅勤務となりましたが、解除後は在宅勤務や自宅研修という制度も運用ありません。しかし、実質は教員の個人の判断・状況で多数の在宅勤務をしています。私自身も緊急事態宣言中に遠隔授業の準備を自宅に整えたため、遠隔授業の配信は、ライブ配信も含めて、全て自宅から行っているのが現状です。1日に一度、大学に出向き、就労システムで出勤登録をコンピューター上で行うか、または、事前になんらかの申請をします。(国立大/文系/常勤)
- 自宅 PC はノートサイズで画面も小さいので、仕事が捗らない。学生の個人情報等を学外に持ち出すことはリスクがあるので、当該情報を自宅で取り扱えなかった(結局、やむを得ず自粛期間中も職場に行った)。ネット会議等は元々、使い勝手が悪いので、円滑なコミュニケーションができない。(国立大/理系/常勤)
- 近年ファイルで提出すればよい書類やシステム上で記入できるものが増えており、今回は押印が必要だったものも不要に切り替わったものが多かった。オンライン会議もこれまでも結構頻繁に行っていたのである程度慣れていた。(国立大/理系/常勤)
- ハンコを押すためだけに、出勤申請をし、許可を受ける。ハンコを押すためだけに郵便で書類が送られてくる。(国立大/理系/常勤)
- 学内のネットワークを利用して遠隔授業を行うために在宅勤務はできない。地域のネットワ

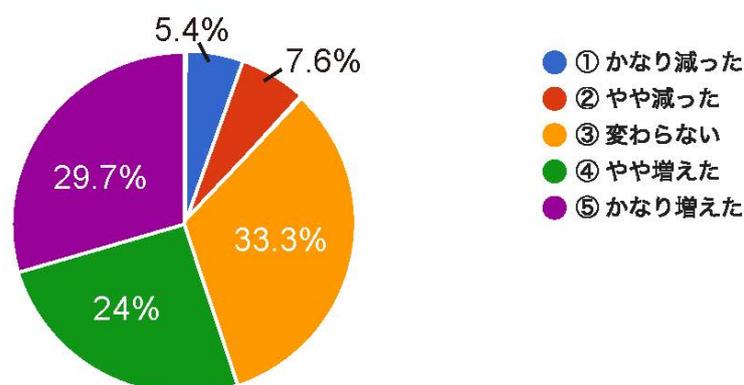
ークインフラが脆弱。(国立大/理系/常勤)

- 自宅に業務に見合った性能のパソコンが無い。インターネット環境がセキュリティの関係から大学のサーバーにフルにはアクセスできない。(国立大/理系/常勤)研究分野の性質上、大学にいかねばならない理由がないため。自宅のオンライン環境が整っているため。(国立大/理系/常勤)
- 実験等はまったくできなくなるので、研究活動が事実上できない。(国立大/理系/常勤)
- 5月など、在宅勤務命令がでたが、それどころではない業務量であった(学科の人員削減が決定的打撃となった)。したがって、ゴールデンウィークを含めて、5月の休日は日曜日を1日取得できただけで、残りの30日は大学勤務せざるを得なかった。この30日の勤務では、1日の平均勤務時間が13時間であった。(国立大/理系/常勤)
- 小学校が休業となったため、在宅での仕事は多忙を極めた。子供への対応、仕事の遂行など夫や家族と調整をしながら進めた。しかし、小さい子供(小学校低学年)には親が家で仕事をしている間邪魔をしないということを徹底するのは非常に難しく、仕事が多々中断した。半分くらいの時間で一日の仕事をする感じになり、パソコンに向かう時間が多く、肩こりや目の疲れ、腰の痛みなども現れた。精神的にも肉体的にも疲れ果てた。(国立大/理系/常勤)
- 自宅のネット回線は速度が遅いので、最低数百MBの授業用動画ファイルをアップロードすることは著しく困難である。自宅のノートPCでは、授業スライド(例:90分)を動画に変換するだけでも、同じ時間(90分)以上掛かり、動画配信日時に間に合わない事もある。緻密な編集作業をするための大画面モニターも自宅にはない。(国立大/理系/常勤)
- 制度はないので裁量労働制の範囲で出勤し、それ以外の時間には仕事をしていないことになっているが、実際には、4月には大学が「あまり出勤するな」といったので、かなり長時間、在宅で仕事をした。大学は「あまり出勤するな」というだけで、在宅勤務の制度も作らず、出勤簿に押印も必要で、雇用者のことをないがしろにしていると強く感じる。(国立大/理系/常勤)
- もともと自宅でも論文がかけるように環境を構築していたことに加えて、VPN接続で校内サーバーにアクセスできるように学校がしてくれたため、思ったよりスムーズでした。(高専/理系/常勤)
- 在宅勤務でよいところもあるが、卒研など学生と対話が必要な内容で、実験を伴うものは、困難であることがわかった。(高専/理系/常勤)
- 会議はMicrosoftのTeamsを用いて遠隔で参加できている。ただし、たとえば、休日出勤に対する振替簿は、原本(押印した書類)を人事・労務係に提出する必要があるという手間がかかっている。(高専/理系/常勤)
- 職場で在宅が推奨されているが、授業準備のための資料やパソコン環境の移動が容易でないため、今の所在宅はしていない。感染したときには、できるだけ授業に穴をあけないために、可能なら、無理にでも持ち帰らざるを得ないと考えている。(高専/理系/常勤)
- 担任業務で学生の個人情報などを持ち出すことに抵抗があり、遠隔授業の実施期間も在宅勤務を選択できなかった。(高専/文系/常勤)

- 制度上の在宅勤務はしていないが、在宅勤務をできる環境を整えないと業務が終わらない（業務時間外の仕事(研究はこれまでも業務時間外の実施が多かったが、その他の教育に関する業務の自宅対応)が増えた)。(高専/理系/常勤)

5. 新型コロナ対応および在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務は例年の通常勤務と比べてどうでしたか。

1123 responses



新型コロナ対応および在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務については、「増えた」とする回答が過半数となっている。増えた理由としては、遠隔授業への対応や学生からの質問への対応が多く挙げられている。「変わらない」とする回答では、その理由として、通常勤務時でも時間外勤務が多いこと、会議・出頭等の減、研究ができなかったことが多く挙げられている。

【自由記述】

- 共通教科書の語学科目では、木曜日 23:59 提出締切の課題を週明けまでに採点に採点するよう科目責任者に求められている。金曜日は別の授業があるため、必然的に休日を使って採点しなければならない。課題の分量も多く、複数コマ担当しているため、合計60人ほどの課題を休日と深夜に数時間かけて採点する。そのほかの授業についても、休日に採点や予習を行わないと追いつかない。深夜に業務を行うことは、体調を考えてなるべく避けたが、やらざるを得ない日もある。(国立大/文系/常勤)
- 日中は子ども達に半分以上を費やすので、仕事は夜間しか出来ない。非常勤で掛け持ちなので仕事をこなすため休日はない。(国立大/文系/非常勤)
- 常に子どもが家にいるため、子どもが寝てからや、土日も含めて仕事をしなければ、最低限の仕事もできなかった。それに加えて、急遽オンラインとなったことでの緊急対応的な仕事も増えたため、平日の勤務時間内には消化しきれなかった。(公立大/文系/常勤)
- 教育の負担が増えたが、研究活動の自粛により研究時間が大きく減って相殺されたと思われます。(国立大/理系/常勤)

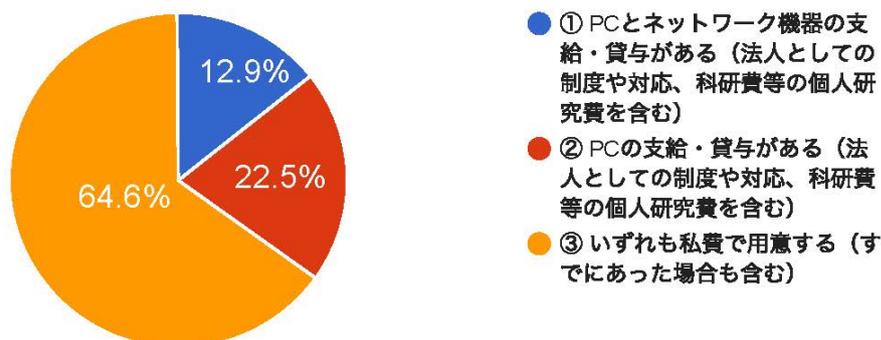
- 他の教員や学生への対応等で、午前3時以前に寝られたことがない。朝はいつも通りに起きているのに、自分の時間が全く取れない。研究？何それ？という感じ。(国立大/文系/常勤)
- オンラインシステム(Moodle)の使い方の学習と、自分の授業準備のため。科目が4つ、かつ、リピート科目がなくバラバラ、また、たまたま4月より転職場したため、すべて新テキスト、のため、膨大な時間がかかっている。毎週どこかでは徹夜しないと授業準備が間に合わない状態。帰る時間も惜しく研究室に何度も泊っている。(国立大/文系/常勤)
- 研究、実験ができなくなったため。(国立大/理系/常勤)
- 授業の準備などに多くの時間を費やしたが、その他の業務が減ったため。(国立大/文系/常勤)
- オンライン授業用の収録のために、人のいない土日に出かけた。学会のZOOM会議が増えて、夕方以降の時間帯が多かった。(国立大/文系/常勤)
- 大学および学生からの全ての連絡がメールやオンラインソフトウェア経由になったため、受信の確認や返信、送信などにかかる時間が増えた。当然、出講日以外の曜日、深夜、休日に事務連絡や学生からの問い合わせに対応をしていることがある。授業内容に関する学生からの質問や、学生から提出される課題の受け付け、確認、採点、返却、質疑応答などについても同様である。(国立大/文系/非常勤)
- 特に緊急事態宣言の期間は家族がずっと家にいるので朝から晩まで三度の食事の準備や子どもの世話で忙しく、家族が寝た後でないと落ち着いて仕事が出来なかった。土日もしっかり授業準備をして、3ヶ月の間1日も休めなかった。(公立大/文系/常勤)
- もともと授業準備や研究活動の一部(デスクワーク)、学生のレポート採点などは夜や休日に家でやっていた。どうせ起きている間はほとんど仕事なので大きな変化はない。(国立大/理系/常勤)
- 担当科目数(異なる授業内容)が4つで150人の学生に対して、学内で決められている遠隔授業のガイドライン通りに授業を進めていこうとすると、到底、決められている労働時間では終わるはずがありません。人事課には月ごとの労働時間を申告する決まりがありますが、本当の労働時間を申告したことはありません。なぜなら、呼び出されて指導の対象となるからです。能力が低いために労働時間が長いではありません。構造的、物理的に一人の教員が遂行できる業務量の限界を超えています。(国立大/文系/常勤)
- 講義資料の作成は必要であったが、会議・出張などは減ったので、差し引き変わらず。(国立大/理系/常勤)
- 通勤時間が減ったので良いが、PCに張り付いてばかりで、卒業研究や実験準備などほとんどできない。文科系の学校なら良いかもしれないが技術系にとっては遠隔授業は役に立たない。(高専/理系/常勤)
- 上部(高専機構・文科省)からの連絡が夕方のものがかなりあり、自治体の報道も夜間のため、早急に対応しようとする時間外になってしまう。(高専/理系/常勤)
- 遠隔授業用に殆ど教材に手をかける必要がある。ゼロから作成しているものも多い。スマホだけで得受講する学生も考慮することになっていて、しかしながら、プリントを学生にコンビ

二印刷させることも批判されたり届ける体制もないとんでもない状況で、これらのことも障害になっている。(高専/理系/常勤)

- 先に回答したように、通常時から業務過多であり、勤務時間内に業務が終わらない。加えて、遠隔授業の準備に膨大な時間がかかり、学生への連絡やその他報告事項が増えた。オンラインでの作業が増え、常に学内業務や学生指導をしている状態となった。とてもじゃないが勤務時間内に終わる分量ではない。(高専/文系)常勤)
- 初期の授業動画準備や遠隔での課題対応をしてしまうと、かなりの負担増でした。遠隔対応可能なため学生からは昼夜問わず質問等がきます。それ以外は、負担減した部分も多くありますが、コロナ対応もありそんなに楽になってはいません。総合すると授業対応で現在のところ負担増が勝っています。長引けば適応してくるでしょうが、今後も状況変化への対応で負担は増すものと考えています。(高専/理系/常勤)

6. 在宅勤務の環境整備【機器】について伺います。

1107 responses



在宅勤務に伴う PC やネットワーク機器の整備については、「私費で用意(すでにあった場合も含む)」という回答が約 65%となっている。私費にしても、教員個人の研究費にしても、遠隔授業対応のために機器を整備したとする回答が多く、法人の負担・補助を求める意見が多い。

【自由記述】

- LMS 利用のためのアカデミックのアカウント取得はしていただきましたが、設備は全て私費です。労力はかなり費やしてるのに給与は変わらないので、少し補助して欲しいです。(国立大/文系/非常勤)
- 科研費や基盤研究費は使えるが、その分研究に回す費用は減る。また、公費での購入は調達課を通さなければならず時間がかかるので、私費で買っているものも多い。(国立大/文系/常勤)
- PC やネットワーク機器の使用の 9 割以上が遠隔講義に関わる利用であることから、個人

研究費からの支払いは間違っていると思う。教育経費で負担してもらいたい。(国立大/理系/常勤)

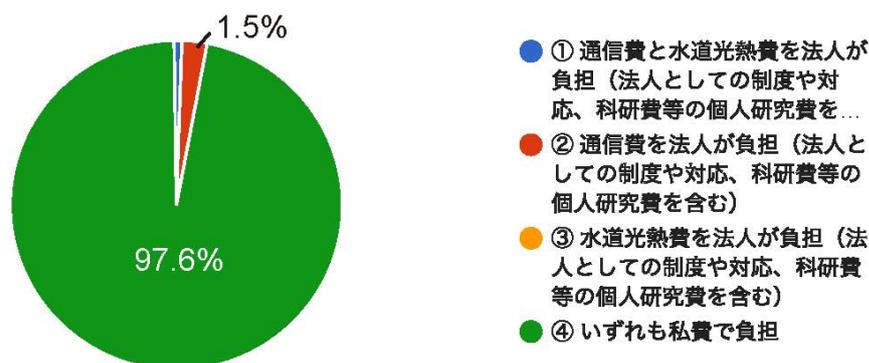
- 大学側は一方的に、自宅勤務、オンデマンドで授業を行えと言うが、動画制作に見合った性能の PC 等の支給もないし、煩雑な手続きの編集作業を各教員に丸投げしている。毎回、数百 MB の授業動画をサーバーにアップロードする必要があるが、自宅の通信環境では著しく時間が掛かる。何種類ものソフト(パワーポイント、動画配信ソフト、動画編集ソフト、大学の授業ポータル等)を使いこなさないと、毎回の動画授業の準備ができず、作業ミス等が生じて多大なストレスが教員に加わっている。本来は、授業を生配信できるオンライン授業の方が手間が掛からない筈なのに、大学側の通信環境等を理由(脆弱な通信速度で、一度に学生が視聴すると通信が混雑するため)に、オンデマンド授業を大学側が強制している。また、自宅勤務を強制するのに、入学試験の問題作成等では、チェックのサインの為に大学に来るよう指示するなど、矛盾した指示が出たりしている。(国立大/理系/常勤)
- ポケット wifi は貸与されていたが日中は繋がらなかった。在宅勤務期間が終わってから自宅に光回線をひいた(ひけた)。(国立大/文系/常勤)
- オンライン講義用のカメラ、ヘッドセット、動画編集アプリ、ホワイトボードマーカはすべて自分の研究費からの出費(20 万円弱)となった。お金を持っている研究者じゃないと対応できないと感じた。(国立大/理系/常勤)
- 在宅勤務したかったが業務が膨大となって不可能であったため実際分からないが、在宅勤務にかかる PC や通信機の貸与の話は大学から無い。というか、そもそも、業務で使用する PC 等の支給は通常時より無く、個人で競争的な研究費を獲得しながら全て揃えていくしかなかった(若手研究者だったころは、PC 機器は全て私物で業務するしか方法がなかった。赴任時に大学へ相談したが支給や貸与は難しいとされ「ご理解ください。ご協力ください。」と言われ、国立大学の実情に驚いた。学生の成績など個人情報扱いでは私物使用のため非常に苦勞をした。(国立大/理系/常勤)
- 個人のかかなり古い PC を使っているの、カメラやビデオの性能があまり高くなく、オンライン授業用の教材作成やオンライン・ミーティングでは、かなり苦戦を強いられている。通信費は自分で負担するにしても、マルチメディア性能が高い PC の貸出や購入補助があるとありがたい。(国立大/理系/常勤)
- オンライン授業やオンライン会議でどんなツールが使える、それにはどんな機材が必要なのか、まったくアナウンスがなかった。そのため、自力で調べ、試行錯誤しながら環境を整えるしかなかった。もちろん、そのための費用も私費であった(基盤研究費は削られる一方で、環境整備に使える予算などまったくない)。今、学生が、オンライン授業ばかりの大学生活にクレームをつけているが、そのための環境整備(機材の整備も、情報の提供も)は教員の自己負担というのは解せない。(国立大/文系/常勤)
- 職場が WiFi ルータを無償で貸し出した。大半の教職員は不要(自宅等にネット環境があるため)だったが、該当者は助かったと思う。(高専/理系/常勤)
- 教員個人のスマートフォンを業務に使わせている。勿論、費用は個人が負担。それでいて、セ

セキュリティ関係の事故は自己責任となる。矛盾だらけ。(高専/理系/常勤)

- 専門学校・大学、どちらからも支給や援助・補助の話が出てこない。遠隔授業をやる前提での雇用ではないにもかかわらず、遠隔授業が当然のようにできるものとして進められているのが、腑に落ちない。(高専/文系/非常勤)
- 今年度研究教育費の60%を遠隔授業用ハードの購入に充てましたが、その補充があるという話はありません。例年の研究はできない、ということになります。(高専/理系/常勤)
- 多くの企業でも私費であるようなので仕方がないのかもしれないが、一部の優良企業は手当てもあると報じられているので大学も率先垂範よいことは見本を示して欲しい。(高専/理系/常勤)

7. 在宅勤務の環境整備【通信費、水道光熱費】について伺います。

1104 responses



通信費、水道光熱費の費用負担については、「私費で負担」が約98%となっている。私用と業務の区別が難しいなどの理由でやむを得ないとする意見もあるが、在宅勤務を行う以上は法人からの補助や手当支給を求める意見が多い。

【自由記述】

- 在宅勤務制度がなくても、休日などに在宅、外出先で仕事している教員がほとんどと思う。その際の環境は個々の教員の研究費(モノによっては私費)で揃えていると思う。自分も、周囲も、遠隔授業のために、カメラやマイク、録音機器を個人研究費などで揃えている。出張していないので、金銭的な負担感は少ない。学生の不安への対応が結構難しい。大学が曖昧な姿勢でいるのも、学生の不安を煽っている。研究分野に関連する外部の事業者、自治体からのコロナ関連の重たい相談にも対応しているので、これも、負担になっているが、こういう時にしっかり相談に乗れることが信頼に繋がる。(公立大/理系/常勤)
- 大学執行部の意思決定、準備、周知方法、いずれもがあまりにお粗末で、「研究大学」が聞いてあきれられる。理系重視の大学であり、全く文系の事情が考えられておらず、ただ単に学生に

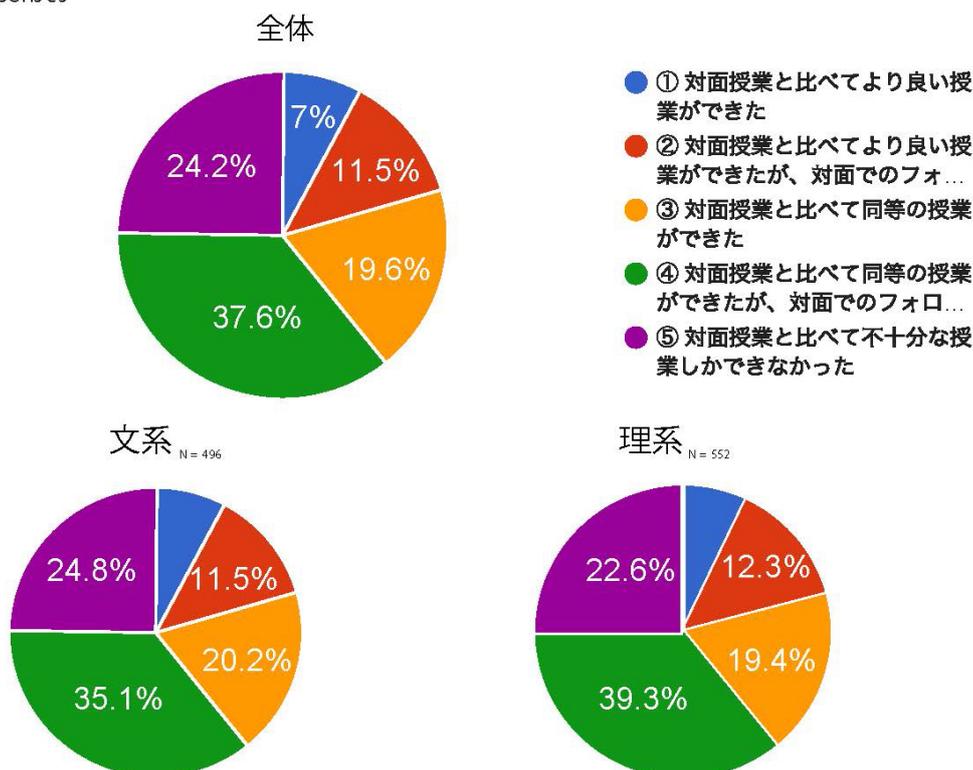
知識を伝授すればよいという浅薄な教育観しか持ち合わせておらず、振り回されている。非常勤に行っている近隣の私立大学の対応が誠実で、嫌でも比較せざるを得ず、日々情けない気持ちを抱いている。(国立大/文系/常勤)

- 人事課の話では、本学ではほとんど在宅勤務の申請者がいないそうです。文科省向けのポージングにしかありません。また、重要なファイルなどをオンラインで取り扱う環境も全く整備されていないため、在宅したくてもできない職員がほとんどのようです。(国立大/理系/常勤)
- 家族と同居のため、オンライン授業のために 1 部屋用意しなければならず、物置になっていた部屋を片付け、5 月から 30 度を超す部屋のためエアコンを設置。費用 6 万、光熱費は当然自費。(公立大/文系/非常勤)
- 授業を全面的にオンライン化した分、今年度は現在までに学内で教材の印刷を一切行っていない。オンライン配信により紙代などの印刷経費は節減されているはずであり、また本来支給されるべき交通費の支出も無くなっている。一方、その分在宅勤務、オンライン授業に必要な音声機材などを自己負担せざるを得なくなっている状況については、大学側に一考を願いたい。(国立大/文系/非常勤)
- どこまでが私用でどこまでが仕事なのか、区分するのは難しい。研究教育費を充実させて、その分でカバーできるとよい。(国立大/理系/常勤)
- 今回は急なことで仕方ないが、在宅勤務を制度化するのであれば、通信費などの支給(あるいは校費での支払いを可能にすること)が必要である。(国立大/理系/常勤)
- 在宅勤務である以上、法人側の対応が鈍い。在宅勤務分の水道光熱費や通信費は当面、自己負担と覚悟していたが、長期化すれば、法人側に的確な対応を要求する必要がある。誰がこのようなことを言うのかが問題であるが。組合の現状からして現状の種々の複雑な労働問題に対する対処能力が欠如している以上、難しいかもしれない。また、在宅勤務が本格的に制度化されれば、労務管理が厳しくなり、それなりの業務量の増大も懸念される。とにかく、提出する書類は減少しないどころか、増加しつつあるのではないか。(国立大/文系/常勤)
- 在宅中の仕事場の確保が難しかった。狭く部屋数がないので、授業中に生活音が流れたりするのが、恥ずかしかった。(高専/理系/非常勤)
- 学内で面談等が原則できないため、自宅で学生面談(進路相談、研究相談等)を行うようになり(土日含む)業務に係る私費での負担はかなり増加している。(高専/理系/常勤)
- これは、明確に分離できないので私費負担で今回は仕方ないと思います。恒常的に在宅勤務を導入するなら日数に応じた定額制で支給するのが妥当なところではないでしょうか？(高専/理系/常勤)
- 多くの企業でも私費であるようなので仕方がないのかもしれないが、一部の優良企業は手当でもあると報じられているので大学も率先垂範よいことは見本を示して欲しい。(高専/理系/常勤)
- 今回は仕方ないとは思いますが、在宅勤務だからといって交通費が日割りされたりもして

なかった。完全に在宅勤務が使えるようになるなら、水道光熱費もいくばくか支給が必要かと思います。(高専/理系/常勤)

8. 遠隔授業【講義】について伺います。

1100 responses



遠隔授業と対面授業それぞれにメリット・デメリットがあるとの回答が多く、対面でのフォローが必要とする回答が約半数ある。オンデマンド授業のメリットとして繰り返しの学習ができることによる理解度の向上、デメリットとして個別学生の理解度に合わせた対応や演習系など科目の特性からの難しさが挙げられている。また、学生同士の間関係がすでにあるクラスと、遠隔で初めて人間関係をつくる1年生のクラスとでの授業効果の差を指摘する回答もある。

【自由記述:文系】

- オンデマンド(PowerPointのスライドにナレーションを録音)で行っている授業は、学生に負担をかけないよう(またこちら負担を減らすために)内容を精選してポイントがつかみやすくなった(と思われる)ほか、余計なことをしゃべらない分、内容が伝わっているような気がする。しかし、本当に伝わっているのかはわからないし、学生のオンデマンド教材の視聴時間を確認すると、極端に短い者もいた。また、省いた「余計なこと」に重要なことがあったりするので、対面でのフォローが必要だと感じる。双方向の授業では、対面とあまり変わらない

いが、画面に顔が映らない(映さない?)学生がいたり、内職をする学生がいたりして、対面(でのフォロー)が必要だと感じた。(国立大/文系/常勤)

- 一長一短あり、一言で回答できない。(国立大/文系/常勤)
- ①科目内容的に、事例を用いることが多くなるが、オンラインでは、事例を使用することが減っている。質的に、学生には臨場感を持ってもらいにくいと考える。②また、これまで、ロールプレイやグループ学習など、アクティブラーニングを展開するようになってきていたが、オンラインでは、できないし、限界がある。③学生の反応がわからないので、ちゃんと聞いているのかどうかかわからない。授業の後の課題ライティングで、理解をできているかどうかの確認をしている。(国立大/文系/常勤)
- 勤務校ではライブ配信型の授業や動画のアップなどが基本的に禁止されてしまった。オンデマンド型の資料提供にもとづく「自習」を基本とするという方針である。そのため、対面授業とくらべて、質・量に制限がかかる。(公立大/文系/常勤)
- 授業準備の段階で試行錯誤を繰り返し、ウェブ会議システムや学習支援システムの特徴を生かした授業にすることができた点は良かった。しかし、前年度までの対面授業などを通じて学生と教員、または学生どうしの関係がある程度できているクラスと、1年生のように最初から遠隔授業でのみ関係を取り結ぶようなクラスとでは、授業効果に差があるように感じられた。(国立大/文系/常勤)
- オンライン授業では細かい文字を映すことができないため、eラーニング形式で実施したが、ノートを取ることを通して記憶に定着させるというプロセスを取れなかったため。(国立大/常勤/文系)
- ビデオ会議システムはインターネット環境に左右される、また、ディスカッションではタイムラグが起きるので、思ったように授業を進められていない。また、対面授業では、学生との雑談から、学生が抱える問題を知ること多かったが、オンライン授業ではそのような出会いがない。教員も学生も「zoom 疲れ」をしている。(国立大/常勤/文系)
- 対面授業と比べて遠隔授業でも質の高い授業ができたのは、学生が繰り返し視聴できる非同期型(オンデマンド)動画を配信したことにより、理解度・定着度を上げられたことが大きな理由の一つと考えられる(学生からのアンケートによる)。一方で、対面によるフォローができれば更に効果を高められる教学内容(語学の発音指導など)もあったが、現在の状況下では諦めざるを得なかった。(国立大/文系/非常勤)
- 対面授業では口頭で学生さんの学習に必要なフィードバックを、個人向けに、グループ向けに、全体向けに、と適宜対応させて行うことができているが、遠隔授業ではきめ細やかな学生さんの学習の深まりに応じた対応はできません。また、語学スキルを獲得するための講座ですので、遠隔授業では、学生さんはスキルの練習をする場面がなく授業の基本が成立しませんでした。また、お互いの課題をピアで評価し合うことによって課題の推敲や改善を行うことができませんでした。(国立大/文系/常勤)
- 動画を確認し、課題を提出させる授業では、学生が動画の内容等をきちんと確認しているかを把握できないので、授業内容をきちんと確認しているか、判断がつかない。また、対面

授業よりも、学生からの意見を聞く機会が減ったので、理解が追い付いていない学生をそのまま放置してしまう結果になってしまった。(国立大/文系/常勤)

- 真面目な学生にとっては、周囲に邪魔されずに集中して取り組むことができたように思われる。一方で、学生によってはこちらの指示が理解できておらず、そのような学生のフォローが難しかった。(高専/文系/常勤)

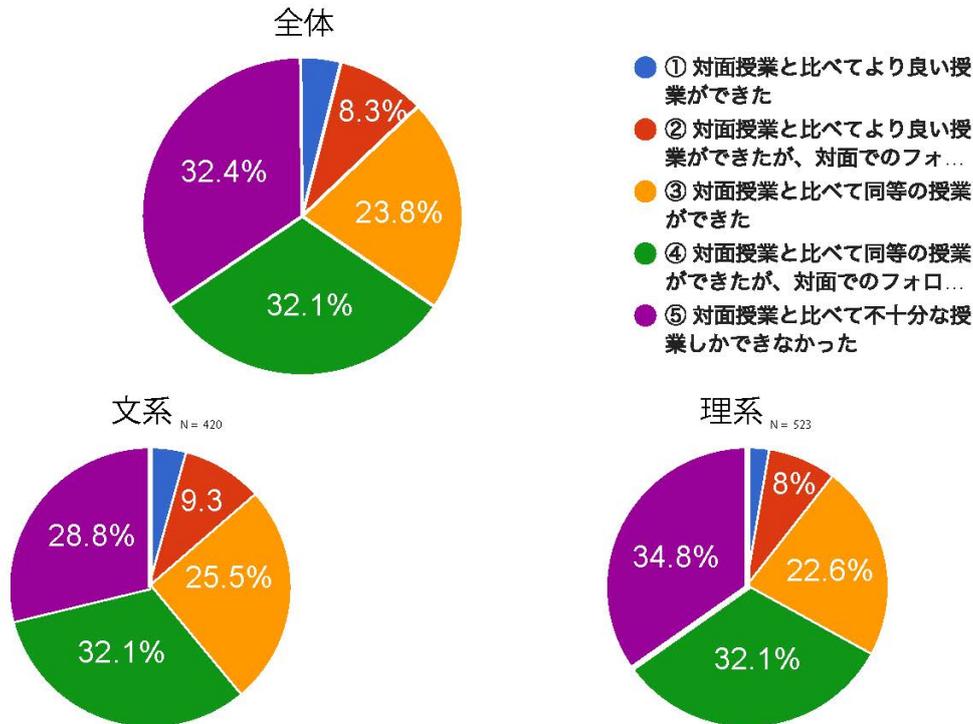
【自由記述:理系】

- 対面よりもむしろ学生からの質問が活発になり、手ごたえを感じます。ただ、実験を見せるなど対面でないとできない体験をさせてあげられなかったのが心残りです。(国立大/理系/常勤)
- 科目によって遠隔でも工夫してよい授業ができたものがある。看護学実習においては、人と対面で行う実習であるため、オンライン実習では不十分であるとする。しかしどの業界も努力・工夫して頑張っているため、オンライン実習も工夫を凝らした。(国立大/医薬保健学系/常勤)
- ソフトウェアはカメラやマイクを使用して双方向で行うことができるものを使用しているが、地域のネットワークインフラが脆弱なため、できるだけ情報量を抑える必要があり、双方向の授業は諦めざるを得ない。受講している学生の様子は全く分からないため授業が成立しているかどうか不安である。(国立大/理系/常勤)
- 講義中に学生の PC が止まったり、講義が聞けなくなる等トラブルが頻発し、講義を聞いている学生の様子がわからなかったりと、かなり不便であった。インターネット環境をちゃんと整備してから、講義が始まったらよかったのだろうが、十分じゃないまま始まったため、初めの頃は学生の現状を確認しながら、対応をしていくのに時間がとられ、十分な教育効果があったかどうかはわからない。(国立大/理系/常勤)
- 講義では内容を削って対応できたが、実習や演習もオンラインとされて全く対応できたと思っていない。評価基準に「技能の習得」が含まれるのに、オンラインでビデオを見せて技能習得が可能なのではない。飛行機の操縦訓練を 100%ビデオ学習で実施し、ビデオ視聴と机上での演習問題のクリアで航空機免許を発行するようなもの。不可能である。教員免許取得用の実験・実習も全てオンラインで行うよう大学から指示され、困難について意見したがトップダウン&リーダーシップの仕組みが強すぎて、全く聞き入れられない。現場は、言うべきは言った、あとはトップが責任を取るのだろう、という理解で渋々実施している。(国立大/理系/常勤)
- オンデマンド授業では学生の反応がつかめず、十分内容が理解できたかも確認しづらかった。授業のコンテンツを作成する際に moodle がパンクしないような配慮が必要で、いつもの授業内容を全ては実施できなかった。半期で 4 回のレポートを課し、図書館での調べ物を癖をつけてもらっていたが、それが出来なかった。レポートの内容も毎回なので、軽く少なくせざるを得なかった。テストは実施できないと判断し、実施しないこととし、レポートで評価することになった。(国立大/理系/常勤)

- 学生の反応がよくわからない。対面授業では学生の反応を見ながら説明を補足したり、省略したりすることが比較的容易にできるが、オンラインでは学生の理解度を把握するのは簡単ではない。かといって、すでに例年以上に多くの宿題が出され、学生もとても負担に感じているという話もでてきているので、安易に宿題などを増やすわけにはいかない。(国立大/理系/常勤)
- 遠隔授業は、動画を残すことで学生の時間的制約が減る・繰り返し復習がしやすいなど、一方向で教える際には良い点も多い。自分ひとりで勉強していける学生には、利点が多いと思う。しかし、遠隔授業は学生の反応が分かりづらく、個々に別々に対応することも難しい。そのため、授業についていけない・積極的に参加していない学生に対するケアは、対面より遠隔は難しいと感じる。(国立大/理系/常勤)
- 学生がどの程度理解できたかの確認ができないから。また、補足情報を提示する場合、特に、数理系では数式などが書き難い。(国立大/理系/常勤)
- デメリット:遠隔のみでは学生間で情報共有不足となりミスに気が付かない。学生の自己管理不足による様々な問題の発生。学生が質問し辛い。教員が学生の状況を把握しづらい。実験実習系の授業は不可能。対面ではこれらを解決できる。メリット:学生の遅刻が減った。(国立大/理系/常勤)
- 時間で縛られない講義ができるため、学生の理解が揃えられる。しかし、遠隔授業で理解することができない学生も少数いるので、対面や個別でのフォローを必要と感じる。(高専/理系/常勤)
- 学生の反応がわからない。通信の負荷軽減のため学生にはマイク・カメラオフで受講させているためだが、質問を受け付けても質問をしてくる学生は毎回同じ。学生によっては動画による受講が性にあっており、楽しく受講してたようだがさぼろうと思えば際限なくさぼれてしまう。遠隔授業の良さ(見返せる, 個人のペースで勉強できる, クラスだと気が散る特性のある学生も周囲を気にせず集中できる)もあるが、登校日的なものは必要だと思った。(高専/理系/常勤)
- 学生のネット環境が揃っていないため、1つの授業で2つのオプション(PCのある学生とPCのない学生)を用意すると対面授業よりもレベルは下がる。オンラインでは学生は気楽に質問ができるためか、勤務時間帯以外にも来るが、研究ほか業務に支障がでた。このため授業に関する質問は時間内に限定した。(高専/理系/常勤)
- 遠隔授業は授業の進度は早くなるものの、どの程度学生が理解できているのかが把握できず、また学生の必要な時に質問しづらい印象を受けた。理解度を見るために毎週宿題を課したが、学生にとってはそれがほぼ全ての教科で行われたようで、負担増となり余裕を持って勉学に臨めたかどうかは疑わしい。(高専/理系/常勤)

9. 遠隔授業【ゼミ】について伺います。

973 responses



概ね講義と同様の意見が多いが、ゼミについては、演習や議論などを通じて、教員と学生、学生同士のコミュニケーションがより重要になる特性から、対面の必要性が講義よりも多く指摘されている。

【自由記述:文系】

- 学生個人が毎回課題を提出するため、それへのフィードバックというかたちで個々の学生と議論が出来ている点は、オンラインのよい点だと感じる。とはいえ、これまで自主的に取り組んできたアクティブラーニング方式の授業が完全に封じられている。教員とはコミュニケーションがあっても、学生同士の対話を欠く点にオンライン授業の限界を感じる。(国立大/文系/常勤)
- 研究室であれば、テーマに関する書籍などをさっと見せたり、貸し出したりして、深めることができるが、それが難しかった。(公立大/文系/常勤)
- ディスカッションがなかなか難しい。空気感をおたがいに感じ取りながら議論を組み立てていくことができないと感じる。対面でのゼミの前後におしゃべりをしたり、お茶を飲んだり、食べたりという時間も貴重であったのだと感じる。(公立大/文系/常勤)
- いろいろと努力はしたが、やはり人間関係ができて初めてゼミは回る。遠隔では、すでに人間関係がある学生はまだしも、4月からの新加入の学生と人間関係を一からつくるのは難し

い。(国立大/文系/常勤)

- 少人数ゼミは、グループワークと全体をつなぐことが有機的にできず(物理的・時間的に別々の作業になってしまい)、板書でのまとめもうまく全体に見えず、通常のようなテンポよくテーマ同士のつながりもよい議論にはできない。これは教員の力量の問題というよりは、やはり遠隔の限界だと思う。(国立大/文系/常勤)
- (1)学生同士の議論に限界がある。(2)ゼミでフィールドワークが行えないため、そもそも平時よりも内容が減っている。(3)コロナウイルスへの対応による就職活動の不安定さにより、4年生がゼミに参加しづらくなっている。(国立大/文系/常勤)
- 対面であれば、授業後にそのまま残って雑談ができるが、オンラインだと時間をオーバーするのが難しい。学生側がどういう環境で受講しているのかわからないので、いつも以上に丁寧なコミュニケーションが必要。(国立大/文系/常勤)
- 遠隔地にいる卒業生や留学生が参加できるのは対面授業にはない良い点だと思いました。(国立大/文系/常勤)
- レジメ提出から、学生との応答、解説にタイムラグができるので、やはりゼミ・演習は対面・リアルタイムの方が教育効果は高いと感じた。反面、資料やレジメの共有、コメントの集約などはオンラインを使うと楽だった。(国立大/文系/常勤)
- スカイプやズームで行った。4年生で卒論テーマや研究内容、方向性が固まりつつあったので、あまり問題なくできたが、細かな指導はしづらい。3年生のゼミや研究テーマを模索中の場合には対面でないと難しい。(国立大/文系/常勤)
- 学生の反応が見えないこと。(高専/文系/常勤)

【自由記述:理系】

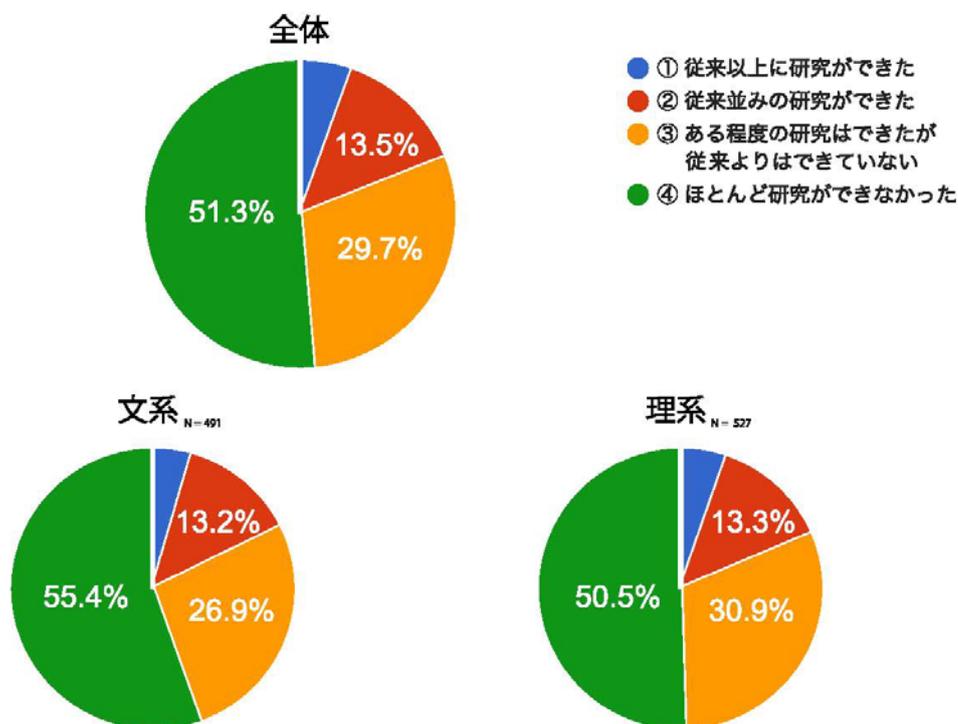
- 実験を伴う研究は出来ていないため、フォローが必要である。(国立大/理系/常勤)
- 対面と同じようにゼミをしたところ、不慣れな部分もあるが倍くらいの時間がかかった。そこで、ドロップボックスペーパーを使って、議論の効率性や質を高めることができた。対面のフォローは、オンラインでの個別ゼミを適宜行なっている。(公立大/理系/常勤)
- 留学生が家庭の事情で帰国してしまい、日本に戻れなくなった。一応ネットでゼミを行ってみたが、時差と通信環境の問題があり、十分な意見交換をできていない。(国立大/理系/常勤)
- 先輩後輩による研究協力関係の構築がゼミの重要な機能だが、オンラインゼミでは発表と質疑応答程度しかできない。(国立大/理系/常勤)
- 特に、研究室に配属されたばかりの学生とは、対面で話す機会がほとんどないままゼミが始まり適切な対応の度合いがわからなかった。(国立大/理系/常勤)
- 実験が進められないため、ほとんど研究の進捗が無かった。文献調査ばかりでは学生に十分指導できない。図を描きながら整理しつつ話をする手法をとっていたが、マウスで画面上に図を描くには限度があり、断念した。(国立大/理系/常勤)
- 遠隔では双方向かつリアルタイムで議論・意見することが難しく、発表者が準備したものを一

方的に発表する形になりがちだった。また、白板やそれに相当するソフトも各家に無いため、その場で書いて説明したり、問題を考えてもらうようなことはできなかった。(国立大/理系/常勤)

- デメリット:学生の在学時間の減少により進捗鈍化。遠隔のみでは学生間で情報共有不足となりミスに気が付かない。学生の自己管理不足による様々な問題の発生。学生が質問し辛い。教員が学生の状況を把握しづらい。対面ではこれらを解決できる。メリット:県外の学生が参加可能。プレゼン時の画面は遠隔で画面共有の方が見やすい。(国立大/理系/常勤)
- 双方向の意思疎通が対面のようにスムーズにいかない。また時間を決めたゼミは遠隔でも、その前後の気軽な意見交換や雑談が有意義な場合があり、それは対面でしかできない。(国立大/理系/常勤)
- ゼミ自体は、1対1で時間を明確にしなければならない分、いつもよりしっかりできた。また画面共有等のツールがより具体的で効率的な情報共有に繋がる部分もあった。ただし、研究用のPCや機器等を使えない状況から進捗は良くない。今後は、徐々に解禁されていくことから調整次第と感じる。(高専/理系/常勤)
- その日の卒業研究の活動内容を報告してもらっている。従来は、学内からのみアクセス可能な研究室のサーバ上にテキストで記述してもらっていたが、今回はオンライン上でのワープロ(Microsoft 365のWord)を用いて日誌を書いてもらっている。学生の活動内容に対するフォローは、対面か日誌上かの違いで、指導内容としては同等と判断している。(高専/理系/常勤)
- 4人のゼミを経験したが、教員側のアプリで資料に書き込みができないので、学生の注意をマウスで惹くしか無かった。学生側も資料を電子ファイルで準備する必要があり、十分なITスキルの無い低学年では学生間での個人差が大きかった。(高専/理系/非常勤)
- エビデンスを残すなど、形の上では良好なゼミ運用ができた。ファイル共有など、情報共有もやりやすい。しかしながら、基礎的な知識や技術の導入はある程度できたように思うが、一方通行なゼミになっている。他大学などと遠隔ミーティングにより学生のモチベーションアップを行い、新鮮さもあって好評であったが、そのうちマンネリ化すると予想される。なお実験系のゼミは全く進まず、部分開校を待たなければならなかった。(高専/理系/常勤)
- 理系の卒研であるので、やはり現場で装置を触らない限り、不十分としか言えない。(高専/理系/常勤)

10. 在宅勤務における研究について伺います。

1081 responses



「ほとんど研究ができなかった」とする回答が過半数となっている。遠隔授業対応、新型コロナへ対応、これらに伴う学生対応といった研究以外の業務が増加したことや、分野の特性や設備の問題から在宅での研究が難しいケース、フィールド調査や実験ができなかったことが多く挙げられている。

【自由記述:文系】

- 基本的には研究データを研究室から持ち出すことができないため。また、在宅保育をしながらの状態であったため、仕事に時間がさけず、最低限の学内業務と授業準備を優先せざるを得なかった。(公立大/文系/常勤)
- 一日中オンライン授業のためのPC作業で毎日10~15時間。研究に費やす気力も体力も時間もない。(公立大/文系/非常勤)
- 子どもと高齢者への接触を自粛せざるをえなかったことと、私が対象としているフィールド自体も活動自粛のところが多く、フィールドワークについてはほとんどできなかったため。(国立大/文系/常勤)
- 家事育児等の日常業務、大学関連業務、学会関連業務等々に時間を割くこととなり、研究のための時間を作ることはできませんでした。(国立大/文系/常勤)
- 主に「業務負担が増えたこと」「全国の図書館が学外からの資料貸出を停止するなどの措置をとっていたこと」が挙げられる(国立大/文系/常勤)

- 図書館等の資料を使用することができなかつたり、県外での調査が一切できなくなつてしまつたため。(国立大/文系/常勤)
- (1)教育面に時間を割きすぎている(割かざるを得ない)。(2)私の研究分野がヒアリング調査などのフィールドワークを中心としているため、外出自粛にまでなつている現状との相性が極めて悪い。(国立大/文系/常勤)
- 研究のための時間を確保したかつたが、オンライン化に追われ、疲れ果て、思つたほどはできなかつた。出張がないので少し落ち着いたが、もっと研究時間を作れると思つていた。(国立大/文系/常勤)
- 遠隔授業を行うために全ての時間と労力を費やさざるを得なかつた。4月初めから8月28日まで、1日たりとも休むことはできなかつた。(国立大/文系/非常勤)
- 授業準備に時間がとられすぎた為、研究に割く時間がほとんどありませんでした。夏休みも各大学が学期を後ろ倒しにしたことでほぼ消滅しています。また、常勤研究者ではないので大学構内に立ち入ることがほぼできず、図書館や研究室の資料を使うことができませんでした。かつ、夏休みの研究のための出張予定も潰れました。(国立大/文系/非常勤)
- 研究分野が在宅でもほぼ問題がないため。(国立大/文系/常勤)
- オンデマンド授業の資料づくりに相当の時間がかかり、学生からの質疑のメールが昼夜 on/off 問わずにくるため。(高専/文系/非常勤)

【自由記述:理系】

- フィールド研究を行つており、出向き出張でのみ、研究サンプルを入手できるため。出張禁止が大学から出ている時期には行くことは、研究スタッフの安全性からも行くことができなかった。(国立大/医薬保健学系/常勤)
- 新型コロナの影響によって、大幅に業務増大し、会議やイベントキャンセルなどもあり、海外渡航の計画もできず、研究も計画通りに実施することができない。(国立大/理系/常勤)
- 在宅では使用できないソフトウェアなどがあるため。(国立大/理系/常勤)
- 学生が維持していた実験動物の維持管理を行う必要が生じた。学生を指導して進めていた研究が事実上、中断状態になった。共同研究機関に出張して、調査・実験を行うことが出来なかつた。(国立大/理系/常勤)
- 基礎系(動物や培養細胞)・臨床系(ヒト検体の解析や介入試験)両方を立ち上げているが、臨床系の実験は完全にストップし、基礎系実験も職場でないといけない上に、十分できるようにならなかつたため。(公立大/医薬保健学系/常勤)
- 教育へのエフォートが90、校務が10程度であつた。(国立大/理系/常勤)
- 大学の制度や対応というより、(1)国内外でのフィールド調査あつての研究なのでそれができないことの打撃、(2)対面での学会・研究会等が開催できないことの打撃、が大きい。(国立大/理系/常勤)
- 学科教員が5年前に比して2割削減されているが、学科の授業数と大学院定員などは増加している。そのため、学科構成員は業務分担によって普段でも研究時間が無かつた。そこへ

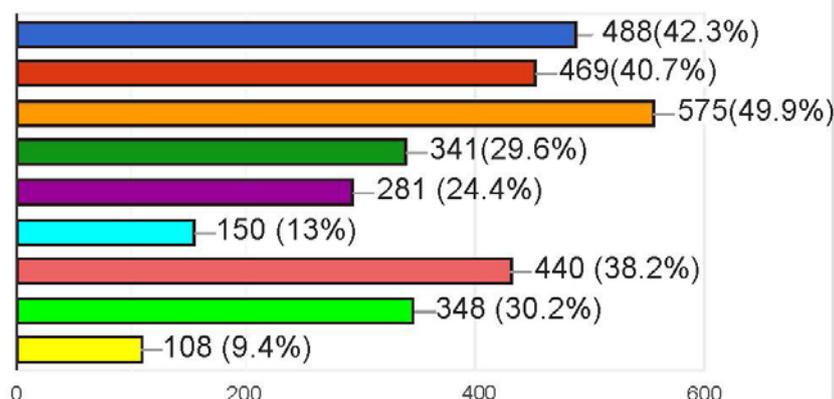
コロナのオンライン授業対応や学生へのケアが降りてきて、とても研究どころではなくなった。(国立大/理系/常勤)

- 実験動物を使用する生物学的研究のため、連続性が必要であり、コロナ禍では、実験動物の飼育維持だけでも大変だった。(国立大/理系/常勤)
- 学生の登校が制限され、新たな研究を進められなかった。(国立大/理系/常勤)
- 授業の準備や評価に時間と労力を割かねばならない。研究の一端を担う学生の入構が大きく制限されていた。(国立大/理系/常勤)
- 「できることの幅」は減ったが、各地での対面での研究会が減り、出張(移動)にかけていた時間が劇的に減少したため、「できることにかかる時間」は増やすことができた。ただ、遠隔授業対応のために費やした時間や、休園になった子供への対応等に費やした時間を踏まえると、プラスマイナスゼロ。実験を伴う研究は出来ていないため、フォローが必要である。(国立大/理系/常勤)
- コロナ対策に時間を取られ、研究時間が減った。休日等で補おうとしているがそれさえ、コロナ対策になることも多い。(高専/理系/常勤)
- 技術系は装置製作や実験準備ののち実験、あるいはそれなりの装置の元で進めるため、在宅では全く何もできない。(高専/理系/常勤)
- 自宅には実験装置がないので、研究することは不可能であったし、そもそも遠隔授業の準備で多忙になり、研究の事を考える余裕はなかった。(高専/理系/常勤)
- 遠隔授業への対応に追われたため。出張と部活動が無くなったので、全体としての業務は減ったように感じますが、遠隔授業対応の業務が増えたこと、在宅勤務で機器を触りづらいこと、学生による研究の進捗が止まったことで、研究全体としてあまり進みませんでした。(高専/その他/常勤)

11. 新型コロナの感染拡大を防止しつつ教育研究体制の充実を進めるための課題について伺います。[3つまで回答可]

1153 responses

- ① 学内における遠隔業務体制のための機器や通信環境の整備
- ② 家庭内における遠隔業務体制のための機器や通信環境の整備
- ③ 対面での教育研究のための学内のスペース確保や感染拡大防止設備の整備
- ④ ソーシャルディスタンスに配慮した少人数での授業の実施
- ⑤ ソーシャルディスタンスに配慮した教育研究のための教職員の増
- ⑥ 在宅勤務における教職員の健康確保方法の整備
- ⑦ 適切な手当の支給
- ⑧ 法人全体の経常的な経費の増
- ⑨ その他



学内・家庭内における遠隔業務体制の整備(①②)、対面での教育研究のための環境整備(③)の回答が多い。適切な手当を支給(⑦)の回答も多い。今後の授業のあり方に関して、感染防止対策や教育内容の充実の観点から、科目や分野におうじて遠隔と対面を組み合わせたいとする意見が多い。一方で、十分な感染防止対策を講じることを前提に、対面を基本としたほうがよいとする意見もある。遠隔、対面のいずれにしても、それらに対応できる、人や設備の充実、学生へのサポートの充実が必要との意見が多い。

【自由記述】

- 教員が減少していることに起因する授業回数の増加が、オンライン授業の負担を大幅に増加させることになった。医療の分野では、これまでの予算と人員の削減によって、今回の機器対応が不十分なものになったことが指摘されている。教育の分野でも同じである。通常の状態とは異なる対応を求められたとき柔軟に対応するためには、普段から組織にある程度の余裕がなければならない。余裕を欠く状態でギリギリの対応を求められることが、崩壊に直結する。(国立大/文系/常勤)
- そもそも事務職員の待遇が悪く人員もぎりぎりで回しているため、緊急時の業務負担が事務職員教員とも非常に多くなる。設備も老朽化が激しく、特に学生講義について十分なソーシャルディスタンスを取れる環境にない。全学的なネットワークやセキュリティに対する考えも非常に考えが古く、感染拡大防止を考えながらの教育はオンライン講義でなんとかなっているものの、それ以外についてはむしろ感染を拡大させるのではないかと懸念するほど

- 人的、設備的、予算的、制度的にひどい対応としかいえない。(公立大/医薬保健学系/常勤)
- 非常勤講師としての講義が、各大学の状況が全く異なることと、責任の問題から、極めて困難になった。非常勤講師は最小限の人数として、基本的にすべて常勤教員に採用して、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学運営は為されるべきだ。(国立大/文系/非常勤)
 - 会議は遠隔でできるようになり、効率的になったと思うが、教育に関しては、未だに試行錯誤が続いている。学業以外にも、国際交流や社会性を学ぶなど、大学生活で重要な体験ができていない学生をどのように支援していくかが大きな課題である。また、障がいを抱える学生、LGBTQ 当事者の学生が抱える困難を、コロナ禍でどのように支援していくかは、議論すらされていないことに不安を感じる。(国立大/文系/常勤)
 - 自宅では勤務管理ができないのを良いことに、日頃経験が無く、かつ、作業負荷の掛かる業務を教職員が毎日している事に対して、大学側の配慮がない。煩雑な作業マニュアルを送ってくるだけで、多大な実作業は教員に丸投げ状態になっている。いずれまたは既に、過度なストレスで精神疾患が教職員に発生することを危惧する。(国立大/理系/常勤)
 - 学生の自宅ないし自室におけるネット環境を整備しなければならない。大学法人としてはそのための支援が不可欠に思われる。(国立大/文系/常勤)
 - 在宅勤務と在宅育児・介護の両立は不可能という前提に立って、在宅勤務と育児介護が重なる教職員についての授業を含む勤務の軽減(減給無)が必要。しかしながら、かつ、非常勤の負担を増やさず、学生の不利益にもならない方策は思いつかないです。(国立大/文系/常勤)
 - 教育学部は、他の学部 비해、どうしても人件費の割合が高くなる傾向は大学の自助努力ではどうにもできない部分がある。今後、教育学部を抱える大学・教育学部の単科大学に対しては、そういった意味で国からの予算配分に際して、頼りも手厚い予算配分をお願いしたい。(国立大/附属/常勤)
 - 講義のオンライン化が進むと一見人員が削減できるように感じるかも知れないが、大規模講義になればなるほど個々の学生のコメントを拾う努力が必要。対面でのゼミ・演習・講義はもちろん少人数で行わねばならない。つまり何であれクラスサイズを小さくする(教員数を増やす)必要がある。通信教材を作るにしても録音や照明、ICT 機材の整備、それを操作する人員の確保が必要。(国立大/文系/常勤)
 - 講義形式の授業についてはオンライン授業のほうが効率も良いし、教職員の負担も減るので、コロナ後も継続したほうが良いと思う。一方で、学生実験や実習等対面授業でないと学生への教員に支障が出る授業についてはソーシャルディスタンスに配慮した少人数での授業の実施となるため、これまでの 2-3 倍の授業回数が必要になる。この場合の教職員の負担を考慮する必要がある。在宅勤務が可能な教職員とそうでない教職員との間の不公平感も出てきているので、何らかの基準が必要になってくると思う。(国立大/理系/常勤)
 - 遠隔授業のための機器や環境の整備も重要だと思うが、レポートの添削や質問に対応できる TA など、人的リソースの増強を願いたい。(国立大/理系/非常)
 - 社会調査、フィールドワークを主体とする研究の場合、どのように対応すればよいかの指針

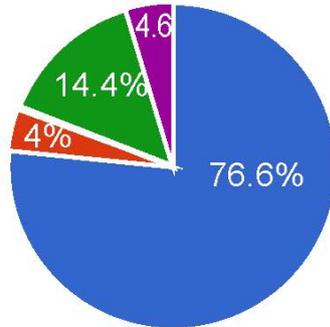
や指示が欲しい。研究というと、理系の実験室等で実施するものばかりを前提に語られているが、社会学や建築の計画学系の分野ではフィールドワークを主とし、対面調査か観察調査など対人により調査研究を行ってる場合も多々ある。そういう研究に対する、助言や指導が少なく、学校としても指針や対応決めずに個人研究者任せにしているところが多いと感じる。(高専/理系/常勤)

- 遠隔授業も何もかも現状の教職員で対応しようとしている点に一番の不満と不安を感じます。医療関係者と同様、現実には夜遅くまで一所懸命にされている教職員もいますので、人員補充をお願いできたらと思います。(高専/理系/常勤)
- 通信環境の整備が絶対条件である。また、クラス全員ではなく、少人数による対面授業が可能となるような環境整備も望まれる。(高専/理系/常勤)
- 人的資源を無視した教育改革と称する追加の業務負担と COVID19 対応のため、研究を進める余裕はまったくない。結果を求めるのであれば、その環境を整備するのは使用者の責任と考える。(高専/理系/常勤)
- 人員不足が一番の痛手です。現在、平常時で全員がかなりの無理をしてようやく学校運営が賄えるという数しか配置されていません。書類上、残業はしてないことになってはいますが、実際は申請していない時間外労働が相当数発生しています。真剣にタイムカードを導入するなどして、長時間労働の実態を把握していただきたいです。定時に帰れた日なんて年に数日ほどです。書類上は毎日定時に帰ってますけど。申請しても無駄という空気が職場にはありますね。変形労働制が採用されていますが、時間外勤務を他の時間で調整させられて、総労働時間が超えていない事になっています。休日出勤も勤務日の設定変更で対応させられます。労働カレンダー上、勤務日出ない日も普通に仕事をしています。それでないと回らないからです。休日も授業準備や採点、学生の卒研指導にあてないと回りません。これがコロナ禍でない日常です。コロナ禍においては、上記に加えて遠隔への対応、感染防止対策など業務が増えています。純粋に教員の定員を増やしてください。このままだと過労死しそうです。(高専/理系/常勤)
- 何も考えなくても良い休日が欲しいです。(高専/理系/常勤)

12. 所属

1171 responses

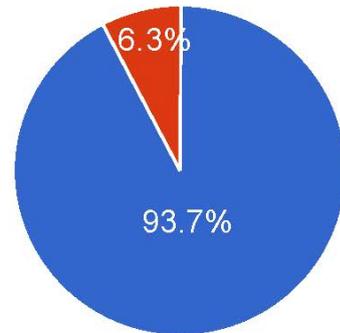
- ① 国立大学
- ② 公立大学
- ③ 大学共同
利用機関
- ④ 高专
- ⑤ その他



13. 雇用形態

1168 responses

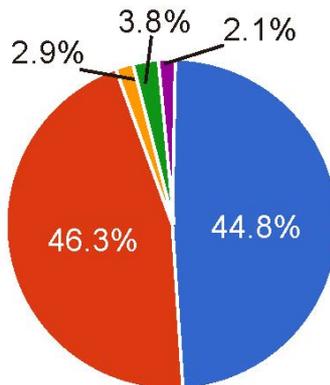
- ① 常勤
- ② 非常勤



14. 専門分野等

1170 responses

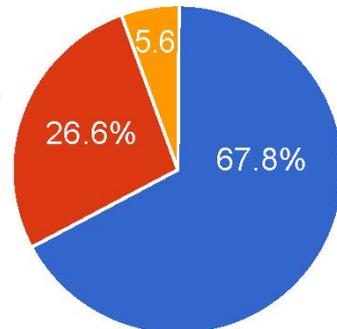
- ① 人文社会科学・
芸術・教育系
- ② 理工・農水学系
- ③ 医薬保健学系
- ④ 附属学校
- ⑤ その他



15. 性別

1162 responses

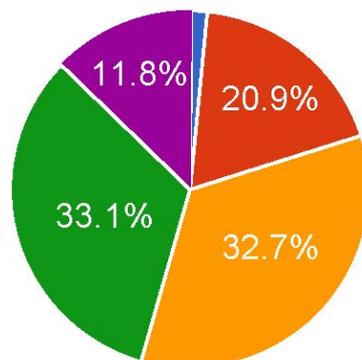
- ① 男性
- ② 女性
- ③ 回答しない



16. 年齢

1157 responses

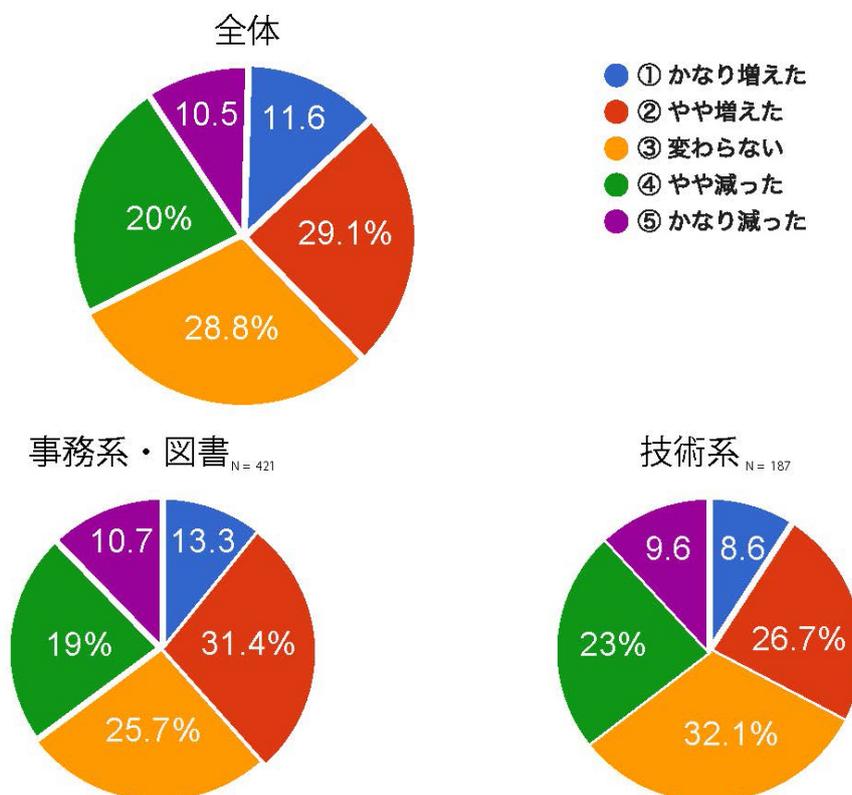
- ① 20歳代
- ② 30歳代
- ③ 40歳代
- ④ 50歳代
- ⑤ 60歳代以上



事務職員、技術職員

1. 新型コロナ対応下での、業務負担は、例年と比べてどうでしたか。

636 responses



新型コロナによる業務負担について、「増えた」が約 40%、「変わらない」が約 30%、「減った」が約 30 パーセントとなっている。自由記述では、「増えた」について、特に事務の職場においては人事異動の時期と重なったこと、年度越しで感染状況が大きく変わる状況下で対応策の変更が繰り返されたことも要因とされて挙げられている。技術では遠隔授業への対応やサポートを例年にはない付加業務と挙げられている。「変わらない」「減った」については、「学生や外来者対応の減少」、「出張、行事の中止」など業務内容を理由にしていることから、本来業務を執行できない一方で新型コロナ対応が負担になっていたのが実情でないか。また、在宅勤務が実施されたが「個人情報の取り扱い」を例とする対応可能業務の制限・限界を理由に「勤務日の負担増があった」としている回答もあり業務の停滞が生じていたこともうかがえる。

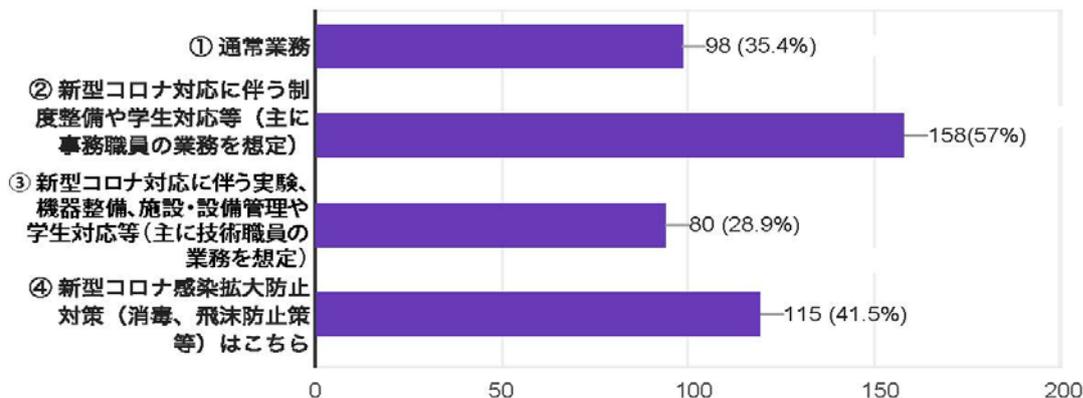
- 納期に対応するために、休日勤務・超過勤務が増えた。(国立大/事務職員/常勤)
- 労務関係の担当であることもあり、コロナの対応・検討等に多くの人員がさかれ、上司と部下の決裁・承認関係も維持できず、不安定な業務状態が継続している。結果して体調不良になる人も複数発生している。(国立大/事務職員/常勤)
- 流行り始めの時期が年度末だったため、通常の年度末業務・新年度準備に加えて、コロナを

見越した対応も想定しなければならず、新年度が近づくにつれて状況も変わって方針も転々としたため、どんなに日々準備を進めても何度も振り出しに戻して対応しなければならず、正直辛かった。学生や保護者、学外関係者も不安で問い合わせも多く、前例のないことであろうがなかったかとも思うが、上層部の方針が決まらないままで現場の判断で回答もできなかったため、不信感を抱かれてしまったかもしれないと思う。4月異動の時期とも重なったため、担当者が変わったりしてさらに混乱を生んでいたようにも思う。(国立大/事務職員/常勤)

- 先が見通せないなかで、状況を予測し、そのための手立てを常に検討する必要性が生じたため、その分負担が生じた。(公立大/事務職員/常勤)
- コロナ対応を考えないといけない分、通常業務が煩雑になった。コロナでできない業務は、やらなくてもいい業務ではないので、結局やる方法を考えないといけない。(国立大/事務職員/非常勤)
- コロナウイルス対策は激増したが通常の業務(学生行事)が無くなったため。(国立大/事務職員/常勤)
- 旅費関係を担当しているが、国内外の教職員の出張が大幅に減少した。(国立大/事務職員/非常勤)
- 個人情報扱う業務なので、職場にいかないと出来ない仕事が多かった。(国立大/事務職員/非常勤)
- オンライン教材の作成やフェイスシールド、飛沫感染防止衝立の制作等。(国立大/技術職員/常勤)
- 通常業務に加えオンライン授業のサポートが増えた。特にPC系に不慣れな教職員もいるので個人の業務は若干減ったものの他教職員のサポートで全体的にはやや増加した。(国立大/技術職員/常勤)
- 学生との対面での対応は減少したが、情報発信などの業務が増えた。(国立大/技術職員/常勤)
- 例年実施している業務がコロナウイルス感染拡大に伴い、期限が延期もしくは中止となり、業務量がやや減った。延期に伴い、今後業務量が増えることが予想される。(国立大/技術職員/常勤)
- 主たる業務の実験指導業務や学生支援または研究支援が行えない状況であった。(国立大/技術職員/常勤)
- イベント関係が延期・中止となり、関連する業務が減ったため。(高専/事務職員/常勤)
- 在宅勤務により仕事の範囲が制限されたので、出勤日の負担が増えた。また、コロナに関する調査等が複数あったため。(高専/事務職員/常勤)
- 技術職員がコロナ対策の部品製作に数多く従事した。デスクの間仕切り、寄宿舍の間仕切り等。さらに、遠隔授業での実験実習カリキュラム見直し等も発生した。(高専/技術職員/常勤)
- 在宅で出来る仕事を考え、メリハリをつけて業務を行った。(高専/技術職員/常勤)

2. 1で①②と回答された方に伺います。業務負担のうち特に増えている内容は何か。【複数回答可】

277 responses

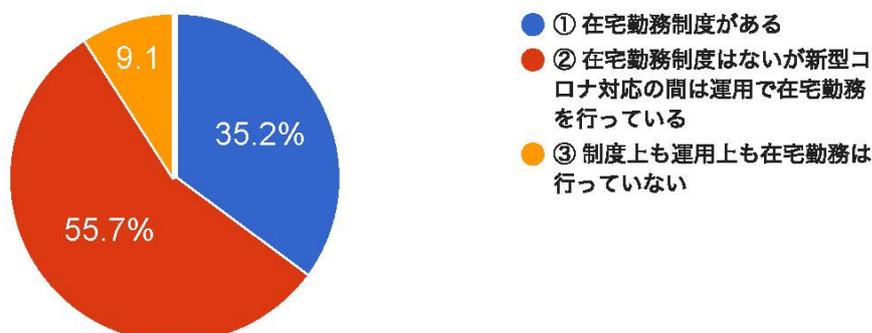


【自由記述】

- 状況把握のための確認作業や、電話からメールでのやり取りが増えたため。(国立大/事務職員/非常勤)
- 業務件数自体が増加。在宅では行えない対面対応が必要。大学勤務日の業務が例年より過密になり、在宅勤務日に行わないといけない業務も増えた。(国立大/事務職員/常勤)
- メールでのやり取りが増え、本紙を後日提出など業務が2度手間になった。日々変わる情勢の対応に確認事項が多くなった。テレワークにより、出勤時への負担が増えた。感染防止の準備等。(国立大/事務職員/常勤)
- 増員もないままにオンライン対応せざるを得なかった。Wi-Fi 増設など通常業務の範囲の業務も増えた。(公立大/事務職員/非常勤)
- 会議や例年の行事など、すべて中止というわけにはいかないが、大学でクラスターを出すわけにはいかず、感染対策は万全のものが求められる。ガイドラインは概要のみのため、詳細な感染対策については一つ一つ手探りで進めることとなっているため。(国立大/事務職員/常勤)
- 出勤可能日が減少し実験可能日が減ったため、一度の実験でこなす実験が多い。(国立大/技術職員/常勤)
- 遠隔授業に向けた学生実験の準備と、授業の実施。(国立大/技術職員/非常勤)
- 例年は対面で行っていた実習の資料を遠隔授業用に作り直しが必要となっている。また、対面での実習が再開すれば、複数人の学生が機械や道具を共有し密集して作業することから消毒作業が必要になる。さらに、例年の授業形態では学生の人数が多く3密を回避できないため、受講人数を減らすために1クラスを2つに分けて授業するというような対策をとるならば授業を行う時間が増える。これらのことから業務量が増える見込みである。(高専/技術職員/常勤)

3. 在宅勤務について伺います。

628 responses



多くの回答が、「新型コロナウイルス感染拡大防止のために在宅勤務制度が導入され、現時点では他の理由(育児や介護など)では適用されない」となっている。以前から育児・介護などを対象に在宅勤務制度を整備しており、新型コロナウイルス感染拡大防止を適用範囲とした大学も複数ある。在宅勤務が「制度化されている」と、「制度はないが、運用として実施している」について、同一法人でも異なる回答が複数あった。また、「制度化されているか分からない」という回答も複数あった。法人内で規則の制度化や運用について、教職員へ丁寧に周知されていない可能性が高いと考えられる。

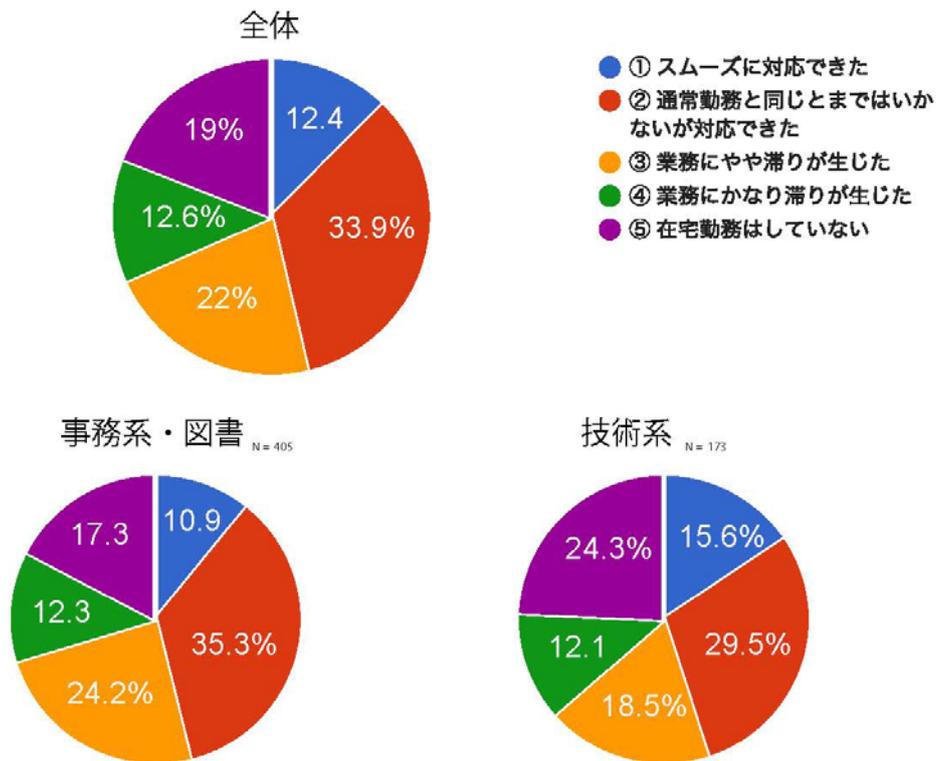
【自由記述】

- とりあえず新型コロナ対応で制度を設けたようです。そのため、今の所は新型コロナ関連で8月末まで適用。後々はもっと正式な制度化も考えてはいるようです。(国立大/事務職員/常勤)
- 基本は育児、介護の場合のみ。今回コロナで感染症の場合が新たに適用された。(国立大/事務職員/常勤)
- 妊娠中の場合、基礎疾患がある場合、透析を受けている場合、抗がん剤等を服用している場合。(国立大/事務職員/非常勤)
- 元々は1-3月に行うはずだった案がそのまま使われているようです。◎対象者全教職員(短時間勤務者を含み、裁量労働制適用の教職員を除く。)のうち、次の条件を満たす者。(1)利用環境業務上必要となる情報通信環境が自宅等に整備されている者(2)利用事由次のいずれかの事由により在宅勤務を希望する教職員のうち、部局長が認める者①小学校第3学年を終了するまでの子の育児を行っている②要介護状態にある家族の介護を行っている③障害等により通勤が困難であると認められる④その他、業務の生産性・効率性の向上等が期待される。(国立大/事務職員/非常勤)
- 新型コロナウイルスの影響が出始めてから導入された。(国立大/技術職員/常勤)
- 新型コロナ感染症の場合、育児・介護の場合等。(高専/事務職員/常勤)

- 在宅勤務の連絡はあったが、職務上実際に職場に出てきて動かないと対応ができないため、在宅勤務は実施していない。幸い育児・介護は該当者がいないため、その苦勞はないが、家族に介護が必要とする職員には、在宅勤務、分散勤務、変形労働による時差出勤、時差勤務や時差休憩・休息など周辺の規則を整備する必要があると考える。(高専/技術職員/常勤)

4. 在宅勤務における業務遂行は例年の通常勤務と比べてどうでしたか。

604 responses



「スムーズに対応できた」「通常勤務と同じとまではいかないが対応できた」を合わせると約45%が在宅勤務での業務遂行に対応できたと回答し、業務に何がしかの「滞り」が生じた回答との差は10%ほどであるが、「在宅勤務をしていない」と回答した自由記述には「個人情報の取り扱い」「PC・ネット環境」「学生、設備対応など業務の都合」が見られ、業務内容や自宅の環境によっては在宅勤務が難しいことが見えてくる。

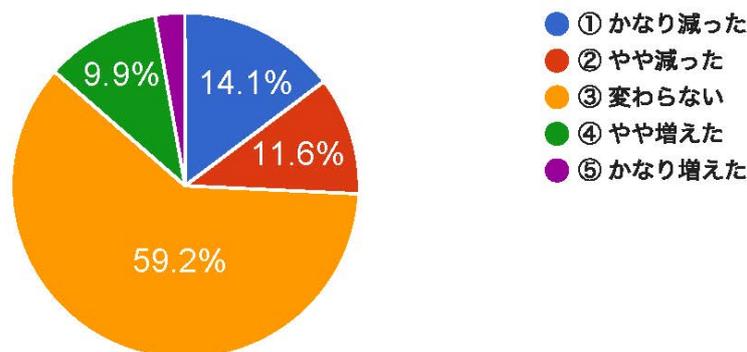
- ネットでかなり無理なくできている。文書の提出も pdf 対応してもらえたら柔軟で良い。(国立大/事務職員/常勤)
- 業務はできたが、資料やデータの持ち出しができないものもあり、すべての業務に対応できるわけではなかった。(国立大/事務職員/常勤)
- 個人情報を自宅では取り扱えないため、そのような場合は出勤の必要があった。(国立大/事

務職員/常勤)

- 在宅勤務できる内容の業務ではないため。(国立大/図書職員/非常勤)
- 大学が在宅勤務に必要な整備をいち早く行ってくれたため。(国立大/技術職員/常勤)
- 現場系の業務は在宅では不可能。(国立大学/技術職員/常勤)
- 資料の持ち出しやシステムへのアクセスに制限があるため、在宅でできる仕事が限られており、出勤日の業務が増えた。(高専/事務職員/常勤)
- 学校内からでしか接続のできないサーバ等が多数あるので、学外からでは多くの業務が実施できない。また、セキュリティ上の関係からこれらを学外から接続できる状態にすることは好ましくない。(高専/技術職員/常勤)

5. 新型コロナ対応および在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務は例年の通常勤務と比べてどうでしたか。

595 responses



「変わらない」とする回答が約 60%となっている。自由記述からは「在宅勤務では時間外労働を行わないよう指示があった」に類する回答がよく見られ、勤怠・時間管理の都合であることも見えた。また「在宅勤務では対応可能な業務に限られる」「教育研究活動が制限された」など在宅勤務では対応不可な業務を理由とする回答もあった。この他、「在宅勤務で出来ない業務を出勤時にまとめて処理した」などで出勤日の時間外労働が増加し結果として「変わらない」「増えた」とする例も見られる。全体として、在宅と出勤の相殺にコロナ対応による増加を勘案すると、業務内容の違いによる時間外労働の増減があったと想像される。

【自由記述】

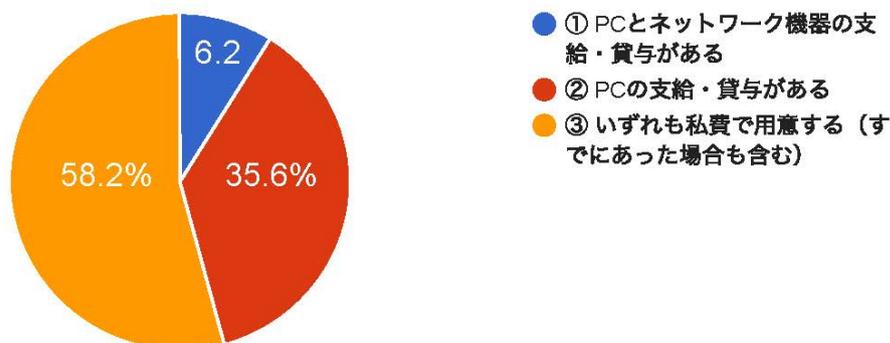
- 在宅勤務時は、定時しか認められないので、定時にパソコンの電源を落とすようになりました。ただ、出勤時にはできるだけのことをやるので、残業はありました。(国立大/事務職員/常勤)
- 育児中のため、短時間での勤務をしているので、そもそも時間外や休日の勤務は少なかった。

ただ、在宅勤務により「時間内」に子供の世話などで勤務できなかった分を「時間外」に行なうことになる部分は生じているがトータルで見るとあまり変わらない。(国立大/事務職員/常勤)

- テレワーク中は超過勤務をしないようにとの指示があった。多少残業は行ったが、例年比で大幅に増えたほどではない。(国立大/事務/非常勤)
- 新型コロナ対応はこれまでに経験のない事態であり、前例のない事象への対応は当然ながら非常に苦慮し、その時々での感染拡大状況に応じた対応が迫られ、様々な方針等の学生や教職員への周知、新たなルール作りなど、通常業務も行いながらの対応であるため、時間外勤務はかなり増えたと感じています。(国立大/事務職員/常勤)
- 増えた業務があるが、できなくなった業務もあるため、業務負担的には増えたが時間的にはそれほど変わらない。(国立大/技術職員/常勤)
- 在宅勤務の日に時間外労働を行うことはないが、在宅勤務のために時間外労働せざるを得ない(在宅勤務の準備、在宅中に滞った通常業務の処理など)。(高専/事務職員/常勤)
- コロナで日常的な業務は減っているが、その分特別な対応が増えたため。(高専/事務職員/常勤)

6. 在宅勤務の環境整備【機器】について伺います。

582 responses



在宅勤務に伴う PC やネットワーク機器の整備については、「私費で用意(すでにあった場合も含む)」という回答が 60%、「PC の支給・貸与がある」が約 35%となっている。自由記述から、職員の状況に応じて PC やネットワーク機器の貸与がされている状況が伺えるが、その場合でも、台数に限りがあることから私物を使用しているケースがままある。

【自由記述】

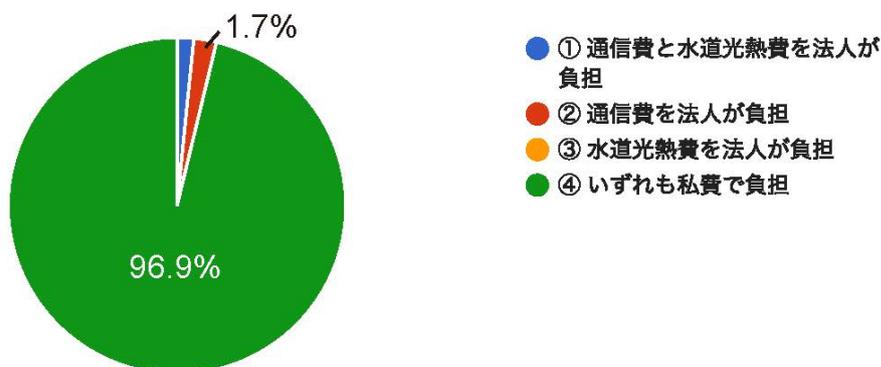
- PC の貸与はあるが、在宅勤務者全員ではない。自宅にネットワーク環境が無ければできないが、ローテーションが組まれ在宅勤務となるので、自宅待機となる人も多い。個人所有の

PC やネットワーク環境に頼っている状態。(国立大/事務職員/常勤)

- 民間では該当者全員に専用のノート PC が支給されているところも多いと思うが、大学では財政的事情から個人の PC を使用せざるを得ず、そのため、学内サーバーに接続が困難であったため、まともに職務遂行ができない職員が多く、結局認められた自己研鑽で資格取得の勉強をすることしかできない例が多く見られた。(国立大/事務職員/常勤)
- 本格的に在宅勤務を体制として行うのであれば、PC の支給など考えてほしい。(国立大/事務職員/非常勤)
- 今回は急なことなのでやむを得ないところもあるが、これを契機に在宅勤務に切り替えている企業も多い。今後も在宅勤務せざるを得ない状況があるならば、在宅でも業務可能なインフラの整備が必要である。(国立大/技術職員/常勤)
- 自前の PC・ネットワークを使用することになっているが、当方の PC は古いものだったため PC は支給、貸与された。(国立大/技術職員/非常勤)
- 支給・貸与ではなく、研究費等で個人持ちの機器を持ち出し登録し、使用した。持っていない人は、持っている人から借りていた。職場から在宅ワークは推奨されたが、機器貸与等の話は無かった。(高専/技術職員/常勤)
- 情報セキュリティの観点から PC の持ち出しは禁止のため私物の PC を使用しており、ネットワーク機器や、遠隔授業のためのヘッドセットについても私物を使用している。自分は普段からこういった機器を使っていたので困ることはなかったが、人によっては新たに PC を購入したり、回線工事を行ったと聞いている。これまでインターネットや PC を利用していなかった人については、業務のためだけに相応の額を出費したことになるので、何らかの補助があってもいいのではないかと思う。(高専/技術職員/常勤)

7. 在宅勤務の環境整備【通信費、水道光熱費】について伺います。

575 responses



在宅勤務に伴う通信費、水道光熱費の費用負担については、「私費で負担」が約 97%となっており、やむを得ないとする意見もあるが、在宅勤務を行う以上は法人からの補助や手当支給を求

める意見が多い。

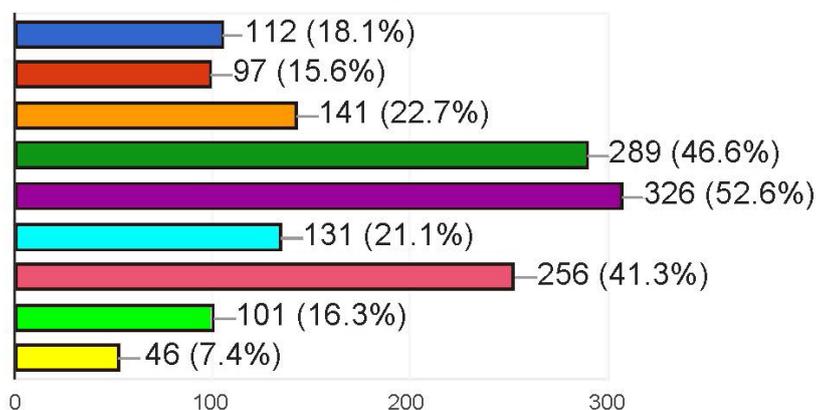
【自由記述】

- 4月・5月は緊急事態でいたしかたなかったと思うが、「ポストコロナ」を謳ってテレワークを推奨するならば、ネットワーク環境整備も雇用主が一定の対応を取る必要がある。(国立大/図書職員/常勤)
- 交通費が従前そのまま支給となってるのでやむを得ないが不公平感はある。(公立大学/事務職員:研究支援・国際交流系/非常勤)
- 普段交通費ももらえてないので、金銭的にも気持ち的のも相殺できない。(国立大学/事務職員:教務・学生支援系/非常勤)
- 今回はコロナによる急な在宅勤務体制だったため、業務が自宅で出来ない人は自習するなど、人によって状況が違うようでした。そのため在宅勤務における私費で、負担の差が出ているはずです。(国立大/図書職員/非常勤)
- 通信費等は私費との線引が難しいのでやむを得ない部分もあるがインフラ整備ができないのであれば通信費等の補填も必要なのではないか。(国立大/技術職員/常勤)
- 通信費だけでも負担してほしい。(高専/事務職員/常勤)
- 通信費の確保は個人負担でよいと考えられるが、PCについては法人の確保が必要と考える。(高専/技術職員/常勤)

8. 新型コロナウイルスの感染拡大を防止しつつスムーズな業務のための課題について伺います。[3つまで回答可]

620 responses

- ① 在宅勤務における超過勤務申請方法の整備
- ② 在宅勤務における教職員の健康確保方法の整備
- ③ 在宅勤務における業務評価の整備
- ④ 学内での勤務における3密を回避するための環境整備
- ⑤ 在宅勤務や時差勤務、ローテーション出勤でも業務に対応できる業務分掌
- ⑥ 在宅勤務や時差出勤、ローテーション出勤でも業務に対応できる人員の増
- ⑦ 適切な手当の支給
- ⑧ 法人全体の経常的な経費の増
- ⑨ その他



学内における 3 密を回避する環境整備(④)、在宅・時差・ローテーション勤務における業務分掌(⑤)、適切な手当の支給(⑦)の回答が多い。⑤については、在宅勤務は有益であるため今後もっと拡大すべきという意見と、在宅勤務ではできない業務もあるため業務過重となることを指摘する意見とがあり、業務によってかなり温度差があることが見て取れる。そうした現状の故に、業務分掌の整理と機器やインフラ等の環境整備が必要とする意見が多いと考えられる。④については、今後対面型の授業が増えつつある中で、より大きな課題となる可能性があるのではないかと。⑦については、回答者は多いものの、自由記述において具体的な手当の内容に言及しているものは病院勤務などを除きそれほど多くなく、コロナ以前に本質的に手当が少ないという問題性があるとも考えられる。

【自由記述】

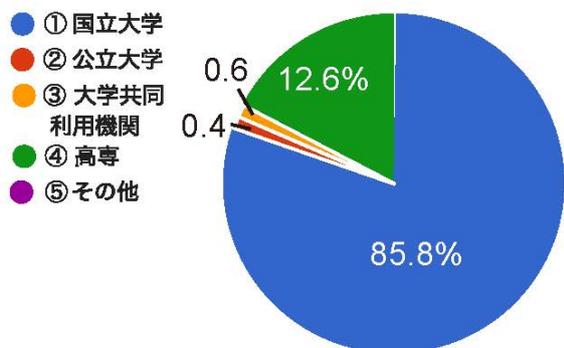
- 部署によって、デスクの衝立が整備してあるところと、してないところがある。全体的に、業者に依頼し、整備するべきではないでしょうか。(国立大/図書職員/非常勤)
- 在宅勤務はできないが、職場で分散勤務を試行した。大学内での分散勤務であるため、環境に不満は生じなかった。また、在宅勤務は、出張と同様に抽象的な勤務時間監督となるため、超過勤務が認められるのかどうか非常に微妙であるし、教育研究の現場(教員がいる現場)では、施設管理の問題や教員・学生対応などがあることを考慮すると、在宅勤務は難しい。よって、学内での分散勤務が現実的だと思う。(法人本部であれば、在宅勤務を導入しやすいと思う)(国立大/事務職員/常勤)
- コロナウイルス対策を実施したことにより、通常時に比し業務が増加する部門と減少する部門に別れているので、閑散部門から繁忙部門に定員を異動すべきではないか。(超過勤務時間を指標にする)(国立大/事務職員/常勤)
- 新型コロナ前から似たような状況だったが、各部署がそれぞれ手探りで対応するため、部署を超えてノウハウを共有する仕組みや慣習がない。例えば Teams の使い方やリモート会議の対応一つとっても詳しい人がいる部署と知らない部署で格差がある気がする。口頭で話をする機会も減ったため、横のつながりがとりにくい。もちろん、各部署が忙しすぎてマニュアル化など「余計な」業務に対応できないということは分かります。(国立大/事務職員/常勤)
- 在宅勤務環境でも、安全に学内サーバー等へアクセスできる環境の整備。(国立大/事務職員/常勤)
- 在宅勤務で対応すべき事項の標準化。(国立大学/事務職員/常勤)
- そもそも各部署の人員が少なく、(残業を加味したうえでの)最低限であるゆえに、完全に役割が分かれているため不在の人間の穴埋めができないという事態が発生しやすい。代わりが効かない人間といえば聞こえがいいが、組織としてはお互いにカバーし合えて補い合えるような余裕ある人員配置でないと、今回のような事態に対応する時個々人が負担を強いらなければならないと考える。(国立大/事務職員/常勤)
- 私の事業場では、3 密を避けてうまくローテーション出勤ができていたと思います。ただ今回が初めてなので他の良い例との比較はできませんが。私の周りの人たちも言っていまし

たが、通信費・水道光熱費は各自負担だったため「水道光熱費がかかる」という点が特に気になったみたいです。そのため、このような組織全体でテレワーク推奨となった場合、テレワーク手当みたいなものが支給されると経済的に助かると思います。(国立大/事務職員/非常勤)

- 在宅勤務ができる人は良いと思うが、できずに危険な中、業務する人への手当が必要だと思う。(国立大学/事務職員//非常勤)
- 医学部はさまざまなコロナ上の危険があるにも関わらず、一斉休業も対象外、特別な手当でも無し、在宅勤務もできないという不遇の環境である。せめて前向きに取り組めるような、手当での支給があるといい。10万円程度？インセンティブがなければやっていけない。(国立大/事務職員/常勤)
- 臨時職員一人暮らしなので今後適切な手当がないと生活に影響する。(国立大/技術職員/非常勤)
- 通勤時間がいらぬなど、在宅勤務には労働者側のメリットもある。コロナ後も勤務の形態として選択可能にしてほしい。(国立大/事務職員/常勤)
- 在宅で行える業務は限られているため、目標設定や業務達成率を求められることが非常に負担である。(国立大/事務職員/常勤)
- 会計システム等を在宅勤務で使用できるような環境整備。(高専/事務職員/常勤)
- 決裁の電子化、勤怠管理の電子化を強く望む。(高専/事務職員/常勤)
- 在宅勤務を今後も続けるのであれば、手当も含めた在宅勤務制度の整備が必要だと思われる。手当について、設備整備手当の支給や、通信費や光熱水費についての手当を支給する(不要となる通勤手当を原資にする)、などの制度を整えれば新型コロナ以外にも在宅勤務を活用できるのではないだろうか。(高専/技術職員/常勤)

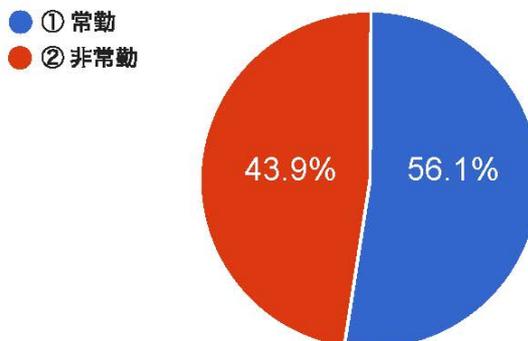
9 所属

641 responses



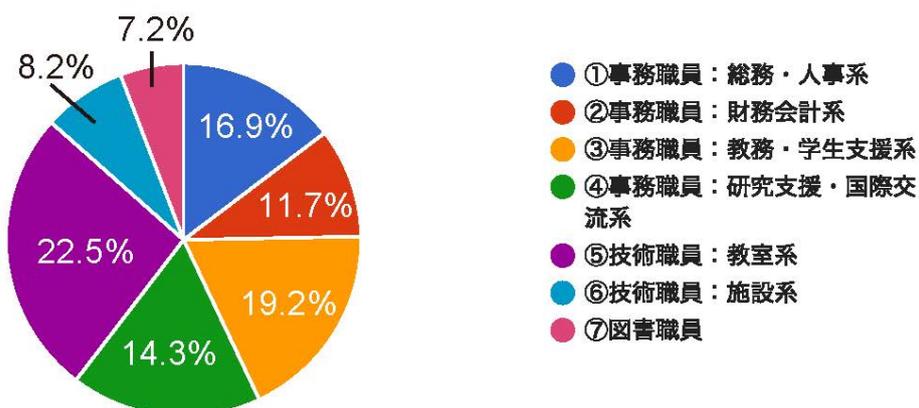
10. 雇用形態

638 responses



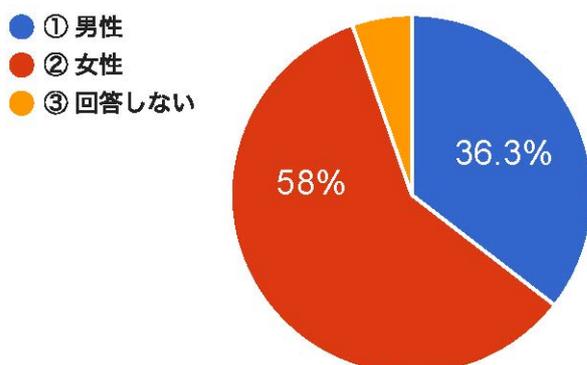
11. 職種

614 responses



12. 性別

631 responses



13. 年齢

621 responses



3. 在宅勤務について伺います。[択一]

- ① 在宅勤務制度がある
- ② 在宅勤務制度はないが新型コロナ対応の間は運用で在宅勤務を行っている
- ③ 制度上も運用上も在宅勤務は行っていない

① と回答された方に伺います。在宅勤務制度が適用される場合はどのような場合ですか。例えば、新型コロナのような感染症の場合、育児・介護の場合、等お書きください

4. 在宅勤務における業務遂行は例年の通常勤務と比べてどうでしたか。[択一]

- ① スムーズに対応できた
- ② 通常勤務と同じとまではいかないが対応できた
- ③ 業務にやや滞りが生じた
- ④ 業務にかなり滞りが生じた
- ⑤ 在宅勤務はしていない

その理由等ご自由にお書きください。

5. 新型コロナ対応および在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務は例年の通常勤務と比べてどうでしたか。[択一]

- ① かなり減った
- ② やや減った
- ③ 変わらない
- ④ やや増えた
- ⑤ かなり増えた

その理由等お書きください。

6. 在宅勤務の環境整備【機器】について伺います。[択一]

- ① PC とネットワーク機器の支給・貸与がある（法人としての制度や対応、科研費等の個人研究費を含む）
- ② PC の支給・貸与がある（法人としての制度や対応、科研費等の個人研究費を含む）
- ③ いずれも私費で用意する（すでにあった場合も含む）

ご意見等ご自由にお書きください。

7. 在宅勤務の環境整備【通信費、水道光熱費】について伺います。[択一]

- ① 通信費と水道光熱費を法人が負担（法人としての制度や対応、科研費等の個人研究費を含む）
- ② 通信費を法人が負担（法人としての制度や対応、科研費等の個人研究費を含む）
- ③ 水道光熱費を法人が負担（法人としての制度や対応、科研費等の個人研究費を含む）

④ いずれも私費で負担

ご意見等ご自由にお書きください。

II. 教育について

8. 遠隔授業【講義】について伺います。[択一]

- ① 対面授業と比べてより良い授業ができた
- ② 対面授業と比べてより良い授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- ③ 対面授業と比べて同等の授業ができた
- ④ 対面授業と比べて同等の授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- ⑤ 対面授業と比べて不十分な授業しかできなかった

その理由等ご自由にお書きください。

9. 遠隔授業【ゼミ】について伺います。[択一]

- ① 対面授業と比べてより良い授業ができた
- ② 対面授業と比べてより良い授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- ③ 対面授業と比べて同等の授業ができた
- ④ 対面授業と比べて同等の授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- ⑤ 対面授業と比べて不十分な授業しかできなかった

その理由等ご自由にお書きください。

III. 研究について

10. 在宅勤務における研究について伺います。[択一]

- ① 従来以上に研究ができた
- ② 従来並みの研究ができた
- ③ ある程度の研究はできたが従来よりはできていない
- ④ ほとんど研究ができなかった

その理由等ご自由にお書きください。

IV. 今後の教育研究体制にむけた課題について

11. 新型コロナの感染拡大を防止しつつ教育研究体制の充実を進めるための課題について伺います。[3 つまで回答可]

- ① 学内における遠隔業務体制のための機器や通信環境の整備
- ② 家庭内における遠隔業務体制のための機器や通信環境の整備
- ③ 対面での教育研究のための学内のスペース確保や感染拡大防止設備の整備
- ④ ソーシャルディスタンスに配慮した少人数での授業の実施
- ⑤ ソーシャルディスタンスに配慮した教育研究のための教職員の増
- ⑥ 在宅勤務における教職員の健康確保方法の整備
- ⑦ 適切な手当の支給
- ⑧ 法人全体の経常的な経費の増
- ⑨ その他()

その他も含めて、ご自由にお書きください。

V. あなたの所属等について

12. 所属[択一]

- ① 国立大学
- ② 公立大学
- ③ 大学共同利用機関
- ④ 高専
- ⑤ その他

よろしければ所属機関名をお書きください。

13. 雇用形態[択一]

- ① 常勤
- ② 非常勤

14. 専門分野等[択一]

- ① 人文社会科学・芸術・教育系
- ② 理工・農水学系
- ③ 医薬保健学系
- ④ 附属学校
- ⑤ その他

15. 性別[択一]

- ① 男性
- ② 女性
- ③ 回答しない

16. 年齢[択一]

- ① 20 歳代
- ② 30 歳代
- ③ 40 歳代
- ④ 50 歳代
- ⑤ 60 歳代以上

国公立大学、大学共同利用機関、高専に勤務する 事務職員のみなさんへ（非常勤含む） 技術職員のみなさんへ（非常勤含む）

新型コロナウイルス感染症への対応下での労働実態・教育研究状況アンケートにご協力をお願いします。

【回答期限】2020年8月末

全国大学高専教職員組合（全大教）では、現在の新型コロナ対応下や本格的な教育・研究活動の再開にあたっての労働・教育研究環境の維持・改善を目的として、標記のアンケートを行っています。

国公立大学、大学共同利用機関、高専に勤務する、事務職員・技術職員のみなさんの声をお聞かせください。

※全大教加盟組合の組合員でない方でもご回答できます。

※附属病院所属の方は今回のアンケートの対象ではありません。別途、取り組みを検討します。

事務職員・技術職員

新型コロナ対応下での労働実態・教育研究状況アンケート

※回答が難しい項目については空欄で構いません。ご自身の分野・職種等によって最も近い回答をご回答ください。

※該当する番号に○をつけてください。

I. 業務負担全般について

1. 新型コロナ対応下での、業務負担は、例年と比べてどうでしたか。[択一]

- ① かなり増えた
- ② やや増えた
- ③ 変わらない
- ④ やや減った
- ⑤ かなり減った

その理由等ご自由にお書きください。

2. 1 で①②と回答された方に伺います。業務負担のうち特に増えている内容は何ですか。

【複数回答可】

- ① 通常業務
- ② 新型コロナ対応に伴う制度整備や学生対応等（主に事務職員の業務を想定）
- ③ 新型コロナ対応に伴う実験、機器整備、施設・設備管理や学生対応等（主に技術職員の業務を想定）
- ④ 新型コロナ感染拡大防止対策（消毒、飛沫防止策等）はこちら

その理由等ご自由にお書きください。

3. 在宅勤務について伺います。【択一】

- ① 在宅勤務制度がある
- ② 在宅勤務制度はないが新型コロナ対応の間は運用で在宅勤務を行っている
- ③ 制度上も運用上も在宅勤務は行っていない

①と回答された方に伺います。在宅勤務制度が適用される場合はどのような場合ですか。例えば、新型コロナのような感染症の場合、育児・介護の場合、等お書きください

4. 在宅勤務における業務遂行は例年の通常勤務と比べてどうでしたか。【択一】

- ① スムーズに対応できた
- ② 通常勤務と同じとまではいかないが対応できた
- ③ 業務にやや滞りが生じた
- ④ 業務にかなり滞りが生じた
- ⑤ 在宅勤務はしていない

その理由等ご自由にお書きください。

5. 新型コロナ対応および在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務は例年の通常勤務と比べてどうでしたか。【択一】

- ① かなり減った
- ② やや減った
- ③ 変わらない
- ④ やや増えた
- ⑤ かなり増えた

その理由等ご自由にお書きください。

6. 在宅勤務の環境整備【機器】について伺います。[択一]

- ① PC とネットワーク機器の支給・貸与がある
- ② PC の支給・貸与がある
- ③ いずれも私費で用意する（すでにあった場合も含む）

ご意見等ご自由にお書きください。

7. 在宅勤務の環境整備【通信費、水道光熱費】について伺います。[択一]

- ① 通信費と水道光熱費を法人が負担
- ② 通信費を法人が負担
- ③ 水道光熱費を法人が負担
- ④ いずれも私費で負担

ご自由にお書きください。

II. 今後の業務体制の整備にむけた課題について

8. 新型コロナの感染拡大を防止しつつスムーズな業務のための課題について伺います。[3つまで回答可]

- ① 在宅勤務における超過勤務申請方法の整備
- ② 在宅勤務における教職員の健康確保方法の整備
- ③ 在宅勤務における業務評価の整備
- ④ 学内での勤務における 3 密を回避するための環境整備
- ⑤ 在宅勤務や時差勤務、ローテーション出勤でも業務に対応できる業務分掌
- ⑥ 在宅勤務や時差出勤、ローテーション出勤でも業務に対応できる人員の増
- ⑦ 適切な手当の支給
- ⑧ 法人全体の経常的な経費の増
- ⑨ その他

その他も含めて、ご自由にお書きください。

III. あなたの所属等について

9. 所属[択一]

- ① 国立大学
- ② 公立大学
- ③ 大学共同利用機関
- ④ 高専
- ⑤ その他

よろしければ所属機関名をお書きください。

10. 雇用形態[択一]

- ① 常勤
- ② 非常勤

11. 職種[択一]

- ① 事務職員：総務・人事系
- ② 事務職員：財務会計系
- ③ 事務職員：教務・学生支援系
- ④ 事務職員：研究支援・国際交流系
- ⑤ 技術職員・教室系
- ⑥ 技術職員・施設系
- ⑦ 図書職員

12. 性別[択一]

- ① 男性
- ② 女性
- ③ 回答しない

13. 年齢[択一]

- ① 20歳代
- ② 30歳代
- ③ 40歳代
- ④ 50歳代
- ⑤ 60歳代以上